

Title	[資料]丙種本西番館訳語校本(稿)
Author(s)	太田, 斎
Citation	神戸市外国語大学外国学研究. 17 p.157-p.215
Issue Date	1987-03
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/19215">https://hdl.handle.net/11094/19215</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 〔資料〕丙種本西番館訳語校本（稿）

太 田 齋

は し が き

いわゆる華夷訳語（ここでは特にことわらない限り、専ら丙種本を指す）は資料として多様の可能性を持つものということができる。今、その中の言語の面に限ってみれば、これまで書誌学及び東洋史学の成果の上に、主に対象言語（即ち華夷訳語の夷語）の解明に努力が注がれてきた。その研究の一々について今さらここに贅言を費す必要もあるまい。

筆者はこれに対し、近世漢字音資料としての可能性を追求しようとするものである。同じ姿勢は既に、坂井健一氏の『近世中国における日本語資料の集約整理と語学的研究』（昭和49年度科研費）による一連の成果報告に見られる。ただ、筆者に誤解がなければ、その対象とするところは上記のテーマに示されるように、「日本館訳語」、「琉球館訳語」（及びそれに関連する同様の体例を持つ資料）及び「朝鮮館訳語」に限られていたようで、寡聞にして他にあることを知らない。

ここに筆者が対象とするものは「西番館訳語」である。今思いつくまに列挙すれば、既に「日本館」、「琉球館」には大友信一氏の、「朝鮮館」には小倉進平氏の、<sup>(注1)</sup>「回回館」には田坂興道氏及び本田實信氏の、「安南」には陳荆和氏の、「畏兀兒館」には庄垣内正弘氏の、「占城館」及び「滿刺加館」には E. D. Edwards, C. O. Blagden 両氏の雄篇が存在し、こと対象言語の研究（特に単語形式の推定）について後学の批判の余地は余りないといっても過言ではない段階にある。「西番館」についても、同様に西田（1963）がある。ただし、同論文では、同時代資料と考えられる明代の韻図<sup>(注2)</sup>より帰納した音韻体系に、個々

の音訳漢字をあてはめていくことにより、西番語の音価を推定し、西番語の語彙を決定して行くという方法が採られている。

漢字音そのものを対象とする場合には、当然のことながら、これを座標軸に論を進める訳にはいかず、別のアプローチを採らざるを得ない。その方法については既に太田（1980）で述べた。今それをやや具体的に示せば、先ず漢字音を諸方言（特に北方方言）を含めた現代音と明代の他の文献によって明らかとなっている事実から考え得る限り、広い対応の幅を設定し、それに対応し得るチベット文語形式（辞書で検索可能な形式という以上の意味は持たない）を推定し、複数ある場合はその中で最も妥当と思われる形式を採る。そして個々の例の中、対応に問題があると思われるものについては双方の歴史的、方言的要因の影響について検討してみる。他の訳語を考慮しつつ、テキスト内部の体系的統一に注意を払い、このような作業を行なった後に始めて漢字音資料としての存在価値を持つものと信ずる。それ故、漢字音を論ずるには先ず、自分なりの校本を作成する必要があるのである。江湖の批判を顧ず、敢えて校本と銘打ったのは、つまり資料としての整合性が明らかにならぬ限り、字音資料として自立し得ぬと考えるからである。（稿）と付したのは、諸賢の御叱正を俟って、改める用意があることを示す。

実際の作業としては先ず、西田（1963）の再検討という手続を踏むことになる。同論文は時代的制約もあり、現在から見れば個々の例に推定の誤りの見られるところもある。恐らく西田氏御自身が修訂稿を執筆されたとすれば、西番語の推定形式に関してはかなり違ったものとなるであろうし、筆者に比べ格段に精緻な考定が披瀝されることになるろう。実際に、後の著書などで改められている例がある。<sup>（注3）</sup>しかし、筆者とは自ら研究対象・方法が異なっており、筆者の校本（稿）も存在の余地はあろうかと思う。

ただし、このような作業の結果が必ずしも予想を裏づけるものかどうか、未だ明らかではない。まず、各訳語に反映される漢語が均質なものかどうかという疑問がある。一つの訳語だけをとってみても、そこには伝統の拘束という要

素を無視できない。こういった問題は韻書に限らず、一説には元代にまで遡るとされる華夷訳語<sup>(注4)</sup>とても例外ではあり得ないのである。確証はないが、甲、乙種本はむろんのこと、先行する訳語の用字法が丙種本に影響を与えた可能性を念頭に置いておかねばならない。西番語についても同様の問題がある。乙種本等の影響や spelling pronunciation によって、口語としては確かにそのチベット文語形式に対応する形式を用いるにせよ、そこに施された音注は実際の発音と異なっているという可能性もあるのである。<sup>(注5)</sup> こういった要素が竄入することによって、対象とする華夷訳語の体系に夾雑物が混じることになる。恐らく直面する困難は漢語に関する方が大きいであろう。つまり、そこからどこまで忠実に曾て実在したと考えられる音韻体系を再構できるのか、疑義を提しておく必要があるのである。

筆者は曾て太田(1980)で、上記の展望の下に西番館訳語を用い、いわゆる<sup>(注6)</sup>矢団を論じた。その際、西番語の推定形式についてはほぼ全面的に西田(1963)に従い、若干例について自分なりの修正案を記すに留めた。そして別に参考資料として、油印本の形で、丙種本は静嘉堂文庫本、乙種(実は丁種)本は天理図書館本を用いて、初歩的校訂(の真似事)を加えたものを作成した。前者について静嘉堂文庫本を採ったのは西田(1960)の依拠するものが阿波国文庫本であったからにすぎない。その時点では校本作成を意図するには至らなかった。今となっては意に満たないところが多い。何よりも静嘉堂文庫本を以て阿波国文庫本を正すことのできる例が、その逆に比べずっと少ないという弱点がある。そこで、全面的に再検討を加え、自分なりの校本を作成することにした。こと西番語に関しては専門家からすれば、失笑を禁じ得ない部分もあろう、特に叱正を待たねばならぬところである。

丙種本華夷訳語に関する、書誌学的、文献学的事項については大友・木村(1968)及び福島(1968)に譲り、ここには記さないことにする。静嘉堂文庫本に付されたカナは、前述の油印本では全て拾ったが、後人の手になるものと思われ(大友・木村 1968 p. 30)、誤りが多く、殆んど参考にならないので、一切

省くことにした。漢字については、別字と見なされる場合に限り、注記に示し、異体字の範囲内であれば、字形に若干の配慮を残して通行字を採る。このため、特に注記はしないが、僻字にあらざる幾つかの異体字は残っている。チベット文語形式については、北村・西田（1960）による転写法を採用した。注の引用部分においては、異なった転写法が現われることがあるが、誤解のない限り、そのままにしておく。前述のように、今は漢・夷双方の対応を確定することが問題なのであり、その推定音価を示す段階には至っていない。これについては、後に漢字音の推定音価とともに稿を改めて論ずることになるであろう。

単語の配列順については阿波国文庫本と静嘉堂文庫本の間で、異同のある場合に限り、適当と思われる方を選ぶに留めた。他の訳語と比較してみれば、一致する語彙も少なくなく、配列順についても、改め得るところがある。例えば、130「水渾」、131「水清」とあるのは体例から見てふさわしくない。実際に朝鮮館、畏兀兒、滿刺加、安南、女真いずれも逆になっている（うち女真は間に二語置く。占城館は「水清」のみ挙げる）。しかしながら、暹羅館は西番館と同じであり、恐らく「水清、水渾」の順が正しいのであろうが、断定はできない。この他、前後関係から見て、西番館の357「虫」、358「亀」は逆と考えられるし、391「螻蛄」も恐らくは367「蚊」の後に来るべきもののように思われる。しかし、各訳語所載の語彙が、全て一致しているという訳でもなく、門の配列も必ずしも同じではない。語彙の選定、記録方法を含め、各訳語の成立については分からぬ部分が多い。特に配列順については当初各訳語が果して全て同じ配列によったものかどうか明らかではなく、その判断が極めて難かしい。たとえ、丙種本の総ての語彙を調べた後においても、配列順についてはなお正否を論ずることはできない。

説明を要するものについてのみ注を付すに留めた。西番語の推定形式について特にことわっていないものは、殆んど西田（1960）に従っている。校定に関しては、双方の一致を求めるに急で、通常の範囲を逸脱した、強引な判断を下したところもある。襟を正して諸賢の批判を仰ぎたい。

- 注1 未完? 田坂(1944)は天文門のみで終わり、その(三完)に「近く全稿を取り纏め更に推敲を加えて発表する予定である。」(p. 534)とあるが、現在に至るまで公にされていないように思われる。
- 注2 徐孝『重訂司馬溫公等韻圖經』(1602)。同書は近世音資料の中で希覯本に属する。一般には陸志韋<記徐孝重訂司馬溫公等韻圖經> (『燕京學報』32期 p. 169—196 1947)に掲げられるものに拠ることが多い。西田(1963)も同様。
- 注3 例えば No. 200 *mi nyag raḥu sngang sa-cha* を西田(1980 p. 22. 元1967)で *mi nyag rab sgang sa cha* とする。
- 注4 石田(1930. 1973に再録) p. 15の附注(一)及び石田(1934. 1973に再録)参照。最古のものとされる『至元譯語』については、既に我長田夏樹師の詳細な論考がある。
- 注5 丁種本については、トス訳語においてチベット文字と漢字による音注の間に齟齬の見られることが指摘されている。西田(1972)及び西田(1973)参照。丙種本にはチベット文字による表記はないのであるが、これが介在することによって漢字による音注が、口語形式を正確には表わしていないという情況に至っている可能性も考慮する必要がある。
- 注6 チベット文語形式の *ky-*, *khy-*, *gy-* に対し歯頭音字が当てられている現象につき3つの解釈の可能性を挙げておいたが、後になって他の可能性もあることに気付いた。即ち、西番語で *ky-[tɕ] khy-[tɕ'] gy-[dɕ]* の如く実現されており、漢語では尖 *ts' s:* 団 *k k' x* もしくは *cc' ɕ* であった。例えば *rgya[dɕu]* という音節には「菊」*[ky(?)~cy(?)]* よりむしろ「絶」*[tsy(?)]* が好まれた、というものである(今韻母については深く検討しない)。*py-*, *phy-* *by-* に専ら歯頭音字を用いた例(例えば、181昔 *phyi*, 478 西 *phyi*, 492 削 *phyug*, 650 星 *phying* etc.)はこれに準じ、例えば「西」*[si]*: *phy[ɕi]* (cf. 「希」*[xi~ɕi]*)のようになっていたものとする。しかしながら、やはり他に *ky-* etc. に対し少なからぬ牙音字の音注例が見られること(例えば、197 吉 *kyi*, 216 恰 *khyags*, 334 器 *khyi*, 433 脚 *skyogs*, 456 家 *rgya*, 477 賈 *rgya*, 539 却 *khyod*, 733 甲 *brgyad* etc.)を同時に合理的に説明することは難しい。ただし、この点は団音の舌面音化が一部の語彙に限って既に現われていたとするか、異なる体系の漢字音の輸入を考えに入れることで解決できないことはない。この他、伝統の拘束等により、現実の音韻体系に合致しない区別が意図的に適用されたという可能性もあるが、これは今のところ積極的な論拠を持たない。いずれにせよ本訳語に反映される西番語、漢語双方が、実在したものととして、時代、地域を特定することについては、その仮定自体を含め、なお十分慎重であらねばなるまい。

## 西番譯語

### 天文門

#### 1 天

#### 難

#### *gnam*

2	地	薩	<i>sa</i>
3	日	你麻	<i>nyi ma</i>
4	月	老瓦	<i>zla ba</i>
5	風	弄	<i>rlung</i>
6	雲	卜吝	<i>sprin</i>
7	雷	卜魯	<i>hbrug</i>
8	雨	叉兒巴	<i>char pa</i>
9	電	洛	<i>glog</i>
10	雹	塞兒瓦	<i>ser ba</i>
11	霧	木巴	<i>smug~rmug pa</i>
12	露	思勒巴	<i>zil pa (?)</i>
13	霜	白木	<i>ba mo</i>
14	雪	渴瓦	<i>kha ba</i>
15	虹	吒谷兒	<i>hjah gur</i>
16	星	噶兒麻	<i>skar ma</i>
17	烟	靚襖	<i>du ba</i>
18	冰	綽卜隆	<i>chab brom</i>
19	天上	難吉駝	<i>gnam gyi thog</i>
20	天下	難吉沙	<i>gnam gyi zhabs</i>
21	天邊	難吉鎖祿	<i>gnam gyi zur (?)</i>
22	天高	難吉團卜	<i>gnam gyi mthon po</i>
23	天陰	難渴替	<i>nam mkha hthibs</i>
24	天晴	難臥黨	<i>gnam sngo dwangs</i>
25	天曉	難郎	<i>gnam langs</i>
26	天旱	難思干	<i>gnam skam</i>
27	天晚	難參	<i>nam mtshan</i>
28	天知	難吉舍	<i>gnam gyi shes</i>
29	青天	難吉溫卜	<i>gnam gyi sngon po</i>

30	白天	難吉噶兒卜	<i>gnam gyi dkar po</i>
31	黃天	難吉塞兒卜	<i>gnam gyi ser po</i>
32	敬天	難特	<i>gnam dad</i>
33	黑天	難吉納卜	<i>gnam gyi nag po</i>
34	青雲	卜咨溫卜	<i>sprin sngon po</i>
35	白雲	卜咨噶兒卜	<i>sprin dkar po</i>
36	黃雲	卜咨塞兒卜	<i>sprin ser po</i>
37	紅雲	卜咨馬兒卜	<i>sprin dmar po</i>
38	黑雲	卜咨納卜	<i>sprin nag po</i>
39	綵雲	噶吒	<i>sprin <u>hjah</u></i>
40	雲開	卜咨謝	<i>sprin <u>hbye</u></i>
41	雲遮	卜咨止	<i>sprin sgrib/<u>h</u>khriḡ</i>
42	日出	你麻沙兒	<i>nyi ma shar</i>
43	日落	你麻奴	<i>nyi ma nub</i>
44	日長	你麻零	<i>nyi ma ring</i>
45	日短	你麻通	<i>ny ma thung</i>
46	日中	你麻祭兒	<i>nyi ma dkyil</i>
47	日斜	你麻足兒	<i>nyi ma <u>hdzur</u></i>
48	日午	你麻拱	<i>nyi ma gung</i>
49	日暖	你麻卓	<i>nyi ma dro</i>
50	日影	你麻蔭止	<i>nyi ma <u>h</u>kh'yims grib(?)</i>
51	日蝕	你麻散怎巴	<i>nyi ma gzah <u>hdzin</u> pa</i>
52	日紅	你麻馬兒卜	<i>nyi ma dmar po</i>
53	月落	老瓦奴	<i>zla ba nub</i>
54	月滿	老瓦岡	<i>zla ba gang</i>
55	月圓	老瓦輪卜	<i>zla ba zlum po</i>
56	月出	老瓦沙兒	<i>zla ba shar</i>
57	月明	老瓦噶兒〔卜〕	<i>zla ba dkar [po]</i>



58	月黑	老瓦納卜	<i>zla ba nag po</i>
59	明星	噶兒麻占	<i>skar ma chen</i>
60	月影	老瓦藥止	<i>zla ba <u>h</u>khyims grib (?)</i>
61	月蝕	老瓦散怎巴	<i>zla ba gzah <u>h</u>dzin pa</i>
62	星出	噶兒麻雄	<i>skar ma <u>h</u>bbyung</i>
63	星落	噶兒麻奴	<i>skar ma nub</i>
64	星多	噶兒麻忙	<i>skar ma mang</i>
65	星少	噶兒麻紐	<i>skar ma nyung</i>
66	星宿	足噶兒	<i>rgyu skar</i>
67	雷霹	駝	<i>thog</i>
68	風起	弄郎	<i>rlung lang(s)</i>
69	風息	弄墨	<i>rlung med</i>
70	風大	弄車	<i>rlung che</i>
71	風小	弄充	<i>rlung chung</i>
72	風來	弄容	<i>rlung yong</i>
73	旋風	弄課兒	<i>rlung <u>h</u>khor</i>
74	風涼	弄掌	<i>rlung grang</i>
75	好風	弄藏	<i>rlung bzang</i>
76	大雨	叉兒巴車	<i>char pa che</i>
77	小雨	叉兒巴充	<i>char pa chung</i>
78	雨下	叉兒巴博	<i>char pa <u>h</u>bab</i>
79	雨住	叉兒巴綽	<i>char pa <u>h</u>jog</i>
80	有雨	叉兒巴約	<i>char pa yod</i>
81	無雨	叉兒巴墨	<i>char pa med</i>
82	雪下	渴瓦博	<i>kha ba <u>h</u>bab</i>
83	雹下	塞兒瓦博	<i>ser ba <u>h</u>bab</i>
84	霜薄	白木薩	<i>ba mo srab</i>
85	冰凍	綽卜隆叉	<i>chab brom <u>h</u>khyag(s)</i>

86	霧罩	木巴替	<i>smug pa hthibs</i>
87	霧散	木巴黨	<i>smug pa dwangs</i>

地理門

88	山	黎	<i>ri</i>
89	江	出戰	<i>chu chen</i>
90	水	出	<i>chu</i>
91	石	梁	<i>rdo</i>
92	路	藍	<i>lam</i>
93	井	董出	<i>dong chu</i>
94	牆	蔣	<i>gyang</i>
95	城	渴兒	<i>mkhar</i>
96	河	出烏	<i>chu bo</i>
97	海	剪剝	<i>rgya mtsho</i>
98	溝	龍巴	<i>lung pa</i>
99	岸	出戰	<i>chu hgram</i>
100	地	薩	<i>sa</i>
101	土	擦	<i>rdzab(?)</i>
102	園	喇瓦	<i>ra ba</i>
103	林	納烏	<i>nags bo</i>
104	村	鍾切兒	<i>grong khyer</i>
105	田	繩	<i>zhing</i>
106	橋	散巴	<i>zam pa</i>
107	崖	卜喇	<i>brag</i>
108	泉	出密	<i>chu mig</i>
109	池	丁噶	<i>lteng ka</i>
110	沙	彼麻	<i>bye ma</i>

111	浪	把洛	<i>rba rlab</i> s
112	山高	黎團卜	<i>ri mthon po</i>
113	山低	黎罵瓦	<i>ri dmah<sup>h</sup> ba</i>
114	山上	黎喇噶	<i>ri bla kha</i>
115	山下	黎窩納	<i>ri <u>h</u>og na</i>
116	山前	黎敦	<i>ri mdun</i>
117	山後	黎爵	<i>ri rgyab</i>
118	山頂	黎駝	<i>ri thog</i>
119	山脚	黎岡巴	<i>ri rkang pa</i>
120	山邊	黎塔	<i>ri mthah<sup>h</sup></i>
121	山尖	黎尊木	<i>ri rtse mo</i>
122	山洞	黎鋪	<i>ri phug</i>
123	山崕	黎卜喇	<i>ri brag</i>
124	山澗	黎壠巴	<i>ri lung pa</i>
125	青山	黎溫卜	<i>ri sngon po</i>
126	石山	黎梁	<i>ri rdo</i>
127	雪山	渴瓦黎	<i>kha ba ri</i>
128	水深	出丁零卜	<i>chu gting ring po</i>
129	水淺	出哨	<i>chu srab</i>
130	水渾	出鳥	<i>chu nyog</i>
131	水清	出黨	<i>chu d<sup>h</sup>wangs</i>
132	水流	出卓	<i>chu <u>h</u>gro</i>
133	水響	出吒	<i>chu sgra</i>
134	水波	出以把洛	<i>chuh<sup>i</sup> rba rlab</i> s
135	水落	出奴	<i>chu nub</i>
136	水出	出雄	<i>chu <u>h</u>byung</i>
137	水寬	出羊巴	<i>chu yangs pa</i>

138	水窄	出認充	<i>chu zheng chung</i>
139	淨水	出藏	<i>chu gtsang</i>
140	濁水	出作	<i>chu btsog</i>
141	泥水	膽出	<i>hdam chu</i>
142	下水	馬兒出	<i>mar chu</i>
143	過水	出帕兒卓	<i>chu phar hgro</i>
144	海岸	剪剉喇帕力	<i>rgya mtsho ra pha ri(?)</i>
145	河深	出烏丁零〔卜〕	<i>chu bo gting ring [po]</i>
146	河淺	出烏哨	<i>chu bo srab</i>
147	河中	出烏祭兒	<i>chu bo dkyil</i>
148	過河	出烏帕卓	<i>chu bo pha hgro</i>
149	大河	出烏車	<i>chu bo che</i>
150	小河	出烏充	<i>chu bo chung</i>
151	大石	梁瓦車	<i>rdo ba che</i>
152	小石	梁瓦充	<i>rdo ba chung</i>
153	石橋	梁瓦散巴	<i>rdo ba zam pa</i>
154	板橋	梁列散巴	<i>rdo leb zam pa</i>
155	新橋	薩兒巴散巴	<i>gsar pa zam pa</i>
156	舊橋	寧巴散巴	<i>rnying pa zam pa</i>
157	過橋	散巴帕卓	<i>zam pa pha hgro</i>
158	行船	竹卓	<i>gru hgro</i>
159	上岸	思干藍卓	<i>skam la hgro</i>
160	大路	藍車	<i>lam che</i>
161	小路	藍充	<i>lam chung</i>
162	石路	藍梁	<i>lam rdo</i>
163	修路	藍輓	<i>lam hchos</i>
164	分路	藍郭	<i>lam hgol</i>

165	走路	藍卓	<i>lam hgro</i>
166	守路	藍松瓦	<i>lam srung ba</i>
167	水路	出藍	<i>chu lam</i>
168	旱路	干藍	<i>skam lam</i>
169	路遠	藍塔零	<i>lam thag ring</i>
170	路近	藍塔聶	<i>lam thag nye</i>
171	路平	藍疊木	<i>lam bde mo</i>
172	開田	繩謝	<i>zhing hbye</i>
173	種田	繩疊	<i>zhing hdebs</i>
174	水田	出繩	<i>chu zhing</i>
175	犁田	繩磨瓦	<i>zhing rmo ba</i>
176	菓田	升奪喇瓦	<i>shing thog ra ba</i>
177	菜田	撮罵喇瓦	<i>tshod ma ra ba</i>
178	花園	滅奪喇瓦	<i>me tog ra ba</i>
179	守城	渴兒松瓦	<i>mkhar srung ba</i>
180	入城	渴兒囊容	<i>mkhar nang yong</i>
181	出城	渴兒昔洛	<i>mkhar phyi log</i>
182	上城	渴兒喇噶卓	<i>mkhar bla kha hgro</i>
183	看城	渴兒大瓦	<i>mkhar lta ba</i>
184	城裏	渴兒囊	<i>mkhar nang</i>
185	城外	渴兒昔	<i>mkhar phyi</i>
186	城邊	渴兒塔	<i>mkhar mthah</i>
187	邊境	三塔	<i>sa mthah</i>
188	地方	薩叉	<i>sa cha</i>
189	大國	蔣看噶卜	<i>rgyal khams chen po</i>
190	皇城	僧渴兒	<i>gser mkhar</i>
191	城池	渴兒丁噶	<i>mkar lteng ka</i>

地名門

- |     |         |          |   |
|-----|---------|----------|---|
| 192 | 北京      | 大都       | <漢語「大都」                                     |
| 193 | 南京      | 南泰       | <漢語「南臺」                                     |
| 194 | 天全六番招討司 | 沙聘吉末喇班薩兒 | <i>sha phin gyi mo ra pan gsar(?)</i>       |
| 195 | 西天地方    | 賈噶兒薩叉    | <i>rgya gar sa cha</i>                      |
| 196 | 雅州水晶關   | 噶畜出舍吉宗郭  | <i>dgah grub chu shel gyi rdzong mgo(?)</i> |
| 197 | 西番地方    | 博吉薩叉     | <i>bod kyi sa cha</i>                       |
| 198 | 西寧地方    | 宗噶薩叉     | <i>tsong kha sa cha</i>                     |
| 199 | 陝西地方    | 努削薩叉     | <i>nub phyog sa cha</i>                     |
| 200 | 長河西地方   | 米納喇卜岡薩叉  | <i>mi nyag rab sgang sa cha</i>             |
| 201 | 鞏昌地方    | 出馬噶兒薩叉   | <i>chu ma mkhar sa cha</i>                  |
| 202 | 董卜韓胡地方  | 節木罐巴薩叉   | <i>rgyal mo rong pa sa cha</i>              |
| 203 | 四川地方    | 成讀胡薩叉    | <i>khreng tu<u>h</u>u sa cha</i>            |
| 204 | 臨洮地方    | 昇棍薩叉     | <i>shing kun sa cha</i>                     |
| 205 | 涼州地方    | 想卧薩叉     | <i>byang ngos sa cha</i>                    |

時令門

- |     |   |     |                  |
|-----|---|-----|------------------|
| 206 | 春 | 昔渴  | <i>dpyid kha</i> |
| 207 | 夏 | 葉兒渴 | <i>dbyar kha</i> |
| 208 | 秋 | 端渴  | <i>ston kha</i>  |
| 209 | 冬 | 棍渴  | <i>dgun kha</i>  |
| 210 | 年 | 羅   | <i>lo</i>        |
| 211 | 時 | 觀剝  | <i>dus tsod</i>  |
| 212 | 晝 | 你公  | <i>nyi gung</i>  |
| 213 | 夜 | 參木  | <i>mtshan mo</i> |
| 214 | 早 | 阿木  | <i>snga mo</i>   |

215	晚	拱木	<i>dgong mo</i>
216	冷	恰	<i>khyags</i>
217	熱	擦	<i>tsha</i>
218	陰	渴替	<i>mkhah<sub>2</sub> hthibs</i>
219	晴	卧黨	<i>sngo dwangs</i>
220	今日	疊零	<i>de ring</i>
221	明日	桑你	<i>sang nyin</i>
222	後日	囊膩	<i>gnang nyin</i>
223	昨日	渴兒桑	<i>khar sang</i>
224	前日	渴你巴	<i>kha nyin pa</i>
225	今年	打羅	<i>da lo</i>
226	明年	桑羅	<i>sang lo</i>
227	後年	惹羅	<i>gzhes lo (ʔ)</i>
228	去年	那寧	<i>na rnying</i>
229	舊年	羅寧	<i>lo rnying</i>
230	一年	羅治	<i>lo gcig</i>
231	十年	羅竹	<i>lo bcu</i>
232	百年	羅甲攤巴	<i>lo brgya tham pa</i>
233	千年	羅東剝	<i>lo stong tsho</i>
234	萬年	羅翅剝	<i>lo khri tsho</i>
235	萬萬年	羅翅剝翅剝	<i>lo khri tsho khri tsho</i>
236	正月	老瓦治巴	<i>zla ba gcig pa</i>
237	二月	老瓦膩巴	<i>zla ba gnyis pa</i>
238	三月	老瓦孫巴	<i>zla ba gsum pa</i>
239	四月	老瓦日巴	<i>zla ba bzhi pa</i>
240	五月	老瓦阿巴	<i>zla ba lnga pa</i>
241	六月	老瓦竹巴	<i>zla ba drug pa</i>

242	七月	老瓦敦巴	<i>zla ba bdun pa</i>
243	八月	老瓦節巴	<i>zla ba brgyad pa</i>
244	九月	老瓦谷巴	<i>zla ba dgu pa</i>
245	十月	老瓦竹灘巴	<i>zla ba bcu tham pa</i>
246	十一月	老瓦竹治巴	<i>zla ba bcu gcig pa</i>
247	十二月	老瓦竹膩巴	<i>zla ba bcu gnyis pa</i>
248	一日	治你	<i>gcig nyi</i>
249	二日	膩你	<i>gnyis nyi</i>
250	三日	孫你	<i>gsum nyi</i>
251	四日	日你	<i>bzhi nyi</i>
252	五日	阿你	<i>lnga nyi</i>
253	六日	竹你	<i>drug nyi</i>
254	七日	敦你	<i>bdun nyi</i>
255	八日	節你	<i>brgyad nyi</i>
256	九日	谷你	<i>dgu nyi</i>
257	十日	竹灘巴你	<i>bcu tham pa nyi</i>
258	二十日	膩竹灘巴你	<i>gnyis bcu(/nyis cu) tham pa nyi</i>
259	三十日	孫竹灘巴你	<i>(g)sum (b)cu tham pa nyi</i>
260	夜短	參通	<i>mtshan thung</i>
261	夜長	參零	<i>mtshan ring</i>
262	一更	阿兒東治	<i>rnga rdung gcig</i>
263	二更	阿兒東膩	<i>rnga rdung gnyis</i>
264	三更	阿兒東孫	<i>rnga rdung gsum</i>
265	四更	阿兒東日	<i>rnga rdung bzhi</i>
266	五更	阿兒東阿	<i>rnga rdung lnga</i>
267	子時	須瓦覩剎	<i>byu ba dus tshod</i>
268	丑時	那兒覩剎	<i>nor dus tshod</i>



269	寅時	思大靚剉	<i>stag dus tshod</i>
270	卯時	里公靚剉	<i>ri gong dus tshod</i>
271	辰時	補祿靚剉	<i>hbrug dus tshod</i>
272	巳時	主靚剉	<i>sbrul dus tshod</i>
273	午時	大靚剉	<i>rta dus tshod</i>
274	未時	祿靚剉	<i>lug dus tshod</i>
275	申時	周烏靚剉	<i>sprehu dus tshod</i>
276	酉時	斜靚剉	<i>bya dus tshod</i>
277	戌時	器靚剉	<i>kh<sup>yi</sup> dus tshod</i>
278	亥時	帕靚剉	<i>phag dus tshod</i>

花木門

279	花	滅奪	<i>me tog</i>
280	菓	昇奪	<i>shing tog</i>
281	梅	看菊兒	<i>kham skyur</i>
282	杏	看卜	<i>kham bu</i>
283	桃	姐干	<i>rgya kham</i>
284	梨	谷束	<i>ku shu</i>
285	竹	奴罵	<i>smyug~snyug ma</i>
286	木	盛	<i>shing</i>
287	薑	吒兒噶	<i>bcah lga</i>
288	蒜	果巴	<i>sgog pa</i>
289	韭	菊	<i>ki<u>hu</u>~ke<u>hu</u></i> 〈漢語「韭」
290	葱	宗	<i>(b)tsong</i> 〈漢語「葱」
291	荳	色麻	<i>srad ma</i>
292	米	白列	<i>hbras</i>
293	麥	卓	<i>gro</i>

294	稻	索襪	<i>so ba</i>
295	松	湯盛	<i>thang shing</i>
296	柳	章麻	<i>lcang ma</i>
297	槐	看包盛	<i>tshos ser shing</i> (?)
298	桑	打兒盛	<i>dar shing</i>
299	樹	董卜	<i>sdong po</i>
300	根	糟瓦	<i>rtsa ba</i>
301	草	雜	<i>rtswa</i>
302	葉	羅麻	<i>lo ma</i>
303	蓮花	班麻減奪	<i>pad ma me tog</i>
304	紅蓮	班麻馬兒卜	<i>pad ma dmar po</i>
305	白蓮	班麻噶兒卜	<i>pad ma dkar po</i>
306	紅花	古兒棍	<i>gur gum~kum</i>
307	花開	減奪謝	<i>me tog hbye</i>
308	花謝	減奪耶思	<i>me tog yas</i>
309	花朵	減奪黎里	<i>me tog ril ril</i>
310	花蓋	減奪丹麻	<i>me tog hdab ma</i>
311	戴花	減奪托	<i>me tog thog</i>
312	柑子	新卜魯	<i>se~sehu hbru</i>
313	石榴	孫竹	<i>se~sehu hbru</i>
314	芭蕉	大喇羅麻	<i>ta la lo ma</i>
315	甘蔗	卜藍盛	<i>bu ram shing</i>
316	核桃	大兒噶	<i>dar sga/star kha~ga</i>
317	櫻桃	安菊	<i>an dud</i> (?)
318	菓熟	昇奪撮	<i>shing tog tshos</i>
319	菓落	昇奪博	<i>shing tog hbab</i>
320	烏木	出盛納卜	<i>chu shing nag po</i>

321	綿花	列白	<i>ras bal</i>
322	苧麻	作罵	<i>gtso ~btso ma</i>
323	紅藤	思巴馬兒卜	<i>sba dmar po</i>
324	蘿蔔	喇卜	<i>la phug</i>
325	青稞	奈	<i>nas</i>
326	蕎麥	吒烏	<i>bra bo</i>
327	芝麻	的	<i>til</i>

鳥獸門

328	龍	補祿	<i>hbrug</i>
329	虎	思大	<i>stag</i>
330	象	郎卜車	<i>glang po che</i>
331	馬	大	<i>rta</i>
332	牛	那兒	<i>nor</i>
333	羊	祿	<i>lug</i>
334	犬	器	<i>khyi</i>
335	猪	帕	<i>phag</i>
336	猫	莽節	<i>mang skyes</i>
337	鼠	須瓦	<i>byu ba</i>
338	兔	里公	<i>ri gong</i>
339	鹿	沙襪	<i>shwa ba</i>
340	驢	喇襪	<i>gla ba</i>
341	麂	渴沙	<i>kha shwa</i>
342	豹	義	<i>dbyi~g-yi</i>
343	猴	周烏	<i>sprehu</i>
344	驢	本烏	<i>bon bu</i>
345	騾	止烏	<i>drehu</i>

346	鶯	——\—— 叉	<i>khra</i>
347	燕	渴喇有	<i>kha la yug</i>
348	雀	痴巴	<i>mchil pa</i>
349	鴿	坡欒	<i>phug~phu ron</i>
350	鷺	噶	<i>gag</i>
351	鴨	出斜	<i>chu bya</i>
352	鷄	斜	<i>bya</i>
353	魚	娘	<i>nya</i>
354	鵲	斜噶	<i>skya ka</i>
355	熊	端	<i>dom</i>
356	蛇	主	<i>sbrul</i>
357	虫	卜	<i>hbu</i>
358	龜	呂白	<i>rus sbal</i>
359	蟹	底信	<i>sdig srin</i>
360	蜂	茲卜郎	<i>rtsi sbrang</i>
361	蝶	寫麻列	<i>phye ma leb</i>
362	虱	世	<i>shig</i>
363	蠅	卜郎拿	<i>sbrang nag</i>
364	蚊	母昔	(?)
365	駝	阿蒙	<i>rnga mong</i>
366	青馬	大溫卜	<i>rta sngon po</i>
367	白馬	大噶兒卜	<i>rta dkar po</i>
368	赤馬	大堪卜	<i>rta kham po</i>
369	黑馬	大納卜	<i>rta nag po</i>
370	棗騮馬	大蔣烏	<i>rta rkyang bo</i>
371	沙馬	大磨盧	<i>rta mog ro</i>
372	銀褐馬	大昂塞兒	<i>rta ngang ser</i>

373	蘆花馬	大抄烏	<i>rta khra bo</i>
374	栗色馬	大卜喇烏	<i>rta bra<u>h</u>u</i>
375	黃牛	浪烏	<i>glang bu</i> (?)
376	狐狸	瓦木	<i>wa mo</i>
377	野猪	帕兒國	<i>phag rgod</i>
378	騾馬	大坡占	<i>rta pho chen</i>
379	騾馬	大果麻	<i>rta rgod ma</i>
380	兒馬	大四	<i>rta gseb</i>
381	馬駒	大疊烏	<i>rta rte<u>h</u>u</i>
382	孔雀	卯牙	<i>rma bya</i>
383	鳳凰	斜充	<i>bya khyung</i>
384	仙鶴	斜綵零	<i>bya tshe ring</i>
385	鸚哥	乃作	<i>ne tso</i>
386	天鵝	難吉噶	<i>gnam gi gag</i>
387	鷄啼	斜吒	<i>bya sgrog</i>
388	斑鳩	替的	<i>thi ba</i> (?)
389	黃鶯 —— \ ——	叉塞兒卜	<i>khra ser po</i>
390	蝙蝠	帕汪	<i>pha wang</i>
391	螻蛄	卓罵	<i>grog ma</i>
392	老鴉	渴大	<i>khwa ta</i>
393	海青	火兒巴	<i>hor pa</i>

宮室門

394	房	康巴	<i>khang pa</i>
395	門	郭	<i>sgo</i>
396	窓	噶兒空	<i>skar khung</i>
397	寺	官巴	<i>dgon pa</i>

398	廟	晃康巴	<i>lha khang pa</i>
399	觀	本卜管	<i>bon po dgon</i>
400	磚	巴古	<i>pag gu</i>
401	瓦	絕木	<i>gyo mo</i>
402	館驛	茶木納	<i>hjam mo gnas</i>
403	衙門	參喇	<i>khirms rwa</i>
404	卧房	聶康	<i>nyal khang</i>
405	厨房	塔康	<i>thab khang</i>
406	庫房	嘴康	<i>mdzod khang</i>
407	草房	雜康	<i>rtswa khang</i>
408	瓦房	絕木康	<i>gyo mo khang</i>
409	倉房	白列康	<i>hbras khang</i>
410	馬槽	大[白]列	<i>rta bres</i>
411	軍營	馬噶兒	<i>dmag sgar</i>
器用門			
412	鐘	重	<i>cong</i> <漢語「鐘」
413	鼓	阿	<i>rnga</i>
414	笙	征	<漢語「笙」(?)
415	笛	零卜	<i>gling bu</i>
416	紙	束谷	<i>shog gu</i>
417	墨	納雜	<i>snag tsha</i>
418	筆	紐谷	<i>snjug~smjug gu</i>
419	硯	納梁	<i>snag rdo</i>
420	卓	着祭	<i>cog~lcoq tse~rtse~tshe</i> <漢語「桌子」
421	椅	肉翅	<i>bzhugs khri</i>
422	床	聶翅	<i>nyal khri</i>

423	櫟	翅度	<i>khri h<u>du</u>g</i>
424	碗	坡兒巴	<i>phor pa</i>
425	碟	疊兒麻	<i>sder ma</i>
426	匙	渴疊〔兒〕	<i>kha sder</i>
427	筋	土兒麻	<i>thur ma</i>
428	鍋	郎阿	<i>slang nga</i>
429	壺	膽畢	<i>dam bi</i>
430	盆	容巴	<i>gzhong pa</i>
431	桶	索卧	<i>zo ba</i>
432	瓢	巴力	<i>pa ri</i>
433	杓	思脚	<i>skyogs</i>
434	等	土兒納	<i>thur nyag</i>
435	秤	姐麻	<i>rgya ma</i>
436	枕	額	<i>sngas</i>
437	扇	席要	<i>bsil yab</i>
438	傘	讀	<i>gdugs</i>
439	針	靠	<i>khab</i>
440	線	谷巴	<i>skud pa</i>
441	鎖	薩子	<i>zag tse</i>
442	鑰	的膩	<i>lde myig</i>
443	繩	塔巴	<i>thag pa</i>
444	盞	磨	<i>rmog</i>
445	甲	鈔	<i>khra<b>b</b></i>
446	鈎	阿卧	<i>a h<u>g</u>ug(?)</i>
447	鎗	董	<i>mdung</i>
448	弓	肉	<i>gzhu</i>
449	箭	大	<i>mdah<u>h</u></i>

450	牌	鋪	<i>phub</i>
451	弩	宛大	<i>dbang mdah</i>
452	旗	大兒	<i>dar</i>
453	劍	來支	<i>ral gri</i>
454	鞦	大減	<i>rta rmed</i>
455	屈	大丹	<i>rta stan</i>
456	黏	戈單	<i>ko gdan</i>
457	鞭	大摺	<i>rta lcag</i>
458	燈籠	我康	<i>hod khang</i>
459	魚網	娘兒家	<i>nya rgya</i>
460	馬鞍	大思噶	<i>rta sga</i>
461	鞍座	安着	<i>sngas h̥jog</i> (?) ; 或<漢語「鞍座」(?)
462	轡頭	大哨	<i>rta srab</i>
463	革籠	禿隆郭	<i>mthur mgo~h̥go</i> (?)
464	攀脅	拱塔	<i>gong thag</i>
465	鎧皮	曰大	<i>yob thag</i>
466	肚帶	羅南	<i>glo snam</i>
467	主勞	稍袖	<i>srab skyog(s)</i>
468	鞍籠	噶介	<i>sga khebs</i>
469	哼囉	董卜車	<i>dong po che</i>
470	喇叭	噶零	<i>ka ling</i>
471	鎖納	零烏	<i>gling bu</i>
472	羅鍋	桑阿	<i>zang nga</i>
人物門			
473	總兵	馬伴噶卜	<i>dmag dpon chen po</i>
474	大人	米占	<i>mi chen</i>



475	頭目	果巴	<i>mgo pa</i>
476	通事	羅雜瓦	<i>lo tsah ba</i>
477	漢人	賈密	<i>rgya mi</i>
478	夷人	西密	<i>phyi mi</i>
479	叔人	阿谷	<i>a khu</i>
480	婦母	阿谷那末	<i>a khu sna mo</i>
481	女婿	馬巴	<i>mag pa</i>
482	姪兒	曹烏	<i>tsha bo</i>
483	大舅	壤卜車瓦	<i>zhang po che ba</i>
484	小舅	壤卜充瓦	<i>zhang po chung ba</i>
485	親家	烏襪	<i>nye ba</i>
486	家長	謙答	<i>khyim bdag</i>
487	男子	沙喇	<i>shar rabs</i>
488	婦人	那末	<i>sna mo~mnah mo</i>
489	老人	米兒干	<i>mi rgan</i>
490	少人	米閏	<i>mi gzhon</i>
491	貧人	密卓兒卜	<i>mi dbul po (?)</i>
492	富人	密削卜	<i>mi phyug po</i>
493	好人	密藏卜	<i>mi bzang po</i>
494	歹人	密菴巴	<i>mi ngan pa</i>
495	反人	密我洛	<i>mi ngo log</i>
496	賊人	密攪巴	<i>mi chom pa</i>
497	匠人	索烏	<i>bzo bo</i>
498	金匠	塞兒吉索烏	<i>gser gyi bzo bo</i>
499	銀匠	玉兒吉索烏	<i>dn̄gul gyi bzo bo</i>
500	鐵匠	吒吉索烏	<i>lcags kyi bzo bo</i>
501	銅匠	松塞兒索烏	<i>zang gser bzo bo</i>

502	錫匠	染膩索烏	<i>zha nye bzo bo</i>
503	皮匠	鍋襪索烏	<i>ko ba bzo bo</i>
504	裁縫	國節索烏	<i>gos chas bzo bo</i>
505	染匠	撮索烏	<i>tshos bzo bo</i>
506	帽匠	沙索烏	<i>zhwa bzo bo</i>
507	繅匠	鷄喇索烏	<i>ske rags bzo bo</i>
508	甲匠	鈔索烏	<i>khra bzo bo</i>
509	畫匠	喇索烏	<i>lha bzo bo</i>
510	木匠	昇索烏	<i>shing bzo bo</i>
511	厨子	塔噶索密	<i>thab ka bzo mi</i>
512	長子	密零卜	<i>mi ring po</i>
513	矮子	密通卜	<i>mi thung po</i>
514	胖子	密酸卜	<i>mi tshon po</i>
515	瘦子	密主巴	<i>mi rjud pa</i>
516	麻子	拓兒巴	<i>thor pa</i>
517	瞎子	密罐瓦	<i>mi long ba</i>
518	龔子	宛巴	<i>hong pa</i>
519	風子	年巴	<i>smyon pa</i>
520	痴子	連巴	<i>glen pa</i>
521	啞子	谷巴	<i>lkugs pa</i>
522	大哥	坡烏車	<i>pho bo che</i>
523	二哥	坡烏膩	<i>pho bo gnyis</i>
524	三哥	坡烏孫	<i>pho bo gsum</i>
525	四哥	坡烏日	<i>pho bo bzhi</i>
526	五哥	坡烏阿	<i>pho bo lnga</i>
527	六哥	坡烏竹	<i>pho bo drug</i>
528	七哥	坡烏敦	<i>pho bo bdun</i>

529	八哥	坡烏節	<i>pho bo brgyad</i>
530	大姐	阿摺車	<i>a che~ce che</i>
531	二姐	阿摺膩	<i>a che~ce gnyis</i>
532	三姐	阿摺孫	<i>a che~ce gsum</i>
533	四姐	阿摺日	<i>a che~ce bzhi</i>
534	五姐	阿摺阿	<i>a che~ce lnga</i>
535	六姐	阿摺竹	<i>a che~ce drug</i>
536	七姐	阿摺敦	<i>a che~ce bdun</i>
537	八姐	阿摺節	<i>a che~ce brgyad</i>
538	我每	阿剎	<i>nga tsho</i>
539	你每	却剎	<i>khyod tsho</i>
540	是誰	俗銀	<i>su yin</i>
541	是我	阿銀	<i>nga yin</i>

人事門

542	去	送	<i>song</i>
543	來	容	<i>yong</i>
544	拜	相參	<i>phyag htshal</i>
545	跪	卜木足	<i>pus mo <u>hd</u>zugs</i>
546	坐	肉	<i>bzhugs</i>
547	睡	聶	<i>nyal</i>
548	哭	霧	<i>ngu</i>
549	笑	兒噶	<i>brgad</i>
550	舞	噶兒黏	<i>gar <u>h</u>cham</i>
551	跳	衡	<i>mchong(s)</i>
552	問	止	<i><u>h</u>dri</i>
553	答	喇	<i>lab</i>

554	說	斜兒	<i>zer</i>
555	聽	年	<i>nyan</i>
556	有	約	<i>yod</i>
557	無	墨	<i>med</i>
558	多	忙	<i>mang</i>
559	少	紐	<i>nyung</i>
560	羞	鵝擦	<i>ngo tsha</i>
561	怕	吒	<i>skrag</i>
562	忙	米空	<i>mi khom</i>
563	閑	空	<i>khom</i>
564	醉	唱茲	<i>chang bzi</i>
565	醒	馬茲	<i>ma bzi</i>
566	買	牛	<i>nyo</i>
567	賣	葱	<i>htshong</i>
568	叩頭	郭兒東	<i>mgo rdung</i>
569	平身	隆喇端	<i>slong klad <u>h</u>don (?)</i>
570	起來	言隆	<i>yar slong</i>
571	鞠躬	革巴谷兒	<i>sked pa dgur</i>
572	進貢	補瓦	<i><u>h</u>bul ba</i>
573	方物	昔納噶	<i>skyes sna ga (?)</i>
574	金佛	塞兒谷	<i>gser sku</i>
575	畫佛	湯噶	<i>thang ka~ga</i>
576	珊瑚	須祿	<i>byu ru</i>
577	瑪瑙	墨乜	<i>mu men</i>
578	琥珀	博世	<i>spos~po shel</i>
579	珍珠	母的	<i>mu tig</i>
580	犛犛	畜	<i>phrug</i>

581	絨褐	南卜	<i>snam bu</i>
582	青木香	呂思大	<i>rus rta</i>
583	黑香	古谷	<i>gu gul</i>
584	白檀香	鑽丹噶兒卜	<i>tsan dhan~dan dkar po</i>
585	降眞香	鑽丹馬兒卜	<i>tsan dhan~dan dmar po</i>
586	吉祥草	谷沙	<i>ku sha</i>
587	海螺	東噶兒	<i>dung dkar</i>
588	響鉢	丁沙	<i>ting shags</i>
589	法鼓	輟阿	<i>chos rnga</i>
590	香爐	玻思坡兒	<i>spos phor</i>
591	花瓶	滅奪膽畢	<i>me tog dam bi</i>
592	數珠	平瓦	<i>(h)phreng ba</i>
593	鈴杵	止力卜	<i>dril bu</i>
594	舍利	領參	<i>ring bsrel</i>
595	麝香	喇則	<i>gla rtsi</i>
596	金箔	塞〔兒〕哨	<i>gser shog</i>
597	顏料	猜兒	<i>mtshal (?)</i>
598	酥油	麻兒	<i>mar</i>
599	奶子	五麻	<i>ho ma</i>
600	表裏	昔囊	<i>phyi nang</i>
601	賞賜	囊認	<i>gnang sbyin</i>
602	綵緞	國欲	<i>gos yug</i>
603	衣服	國節	<i>gos chas</i>
604	表裏	昔囊	<i>phyi nang</i>
605	絹疋	大兒欲	<i>dar yug</i>
606	筵宴	端木	<i>ston mo</i>
607	下程	吒噶	<i>chas ka</i>

608	銅塔	輟兒店	<i>mchod rten</i>
609	藥材	思蠻	<i>sman</i>
610	紅毛纓	馬兒卜阿麻	<i>dmар po a mra</i>
611	黑毛纓	納卜阿麻	<i>nag po a~aa mra</i>
612	白毛纓	噶兒卜阿麻	<i>dkar po a~aa mra</i>

身體門

613	頭	郭	<i>mgo</i>
614	耳	南周	<i>rna mchog</i>
615	口	渴	<i>kha</i>
616	舌	摺	<i>lce</i>
617	眼	密	<i>mig</i>
618	鼻	思納	<i>sna</i>
619	齒	索	<i>so</i>
620	身	密祿	<i>mi lus</i>
621	手	喇巴	<i>lag pa</i>
622	脚	岡巴	<i>rkang pa</i>
623	髮	吒	<i>skra</i>
624	面	鷲	<i>ngo</i>
625	心	寧	<i>snying</i>
626	腸	足罵	<i>rgyu ma</i>
627	腹	蘇巴	<i>gsus pa</i>
628	鬚	馬喇	<i>sma ra</i>
629	腰	革巴	<i>rked~sked pa</i>
630	膝	卜木	<i>pus mo</i>
631	手指	喇巴足谷	<i>lag pa mdzug gu</i>
632	脚指	岡巴足谷	<i>rkang pa mdzug gu</i>

633	指甲	塞兒〔 〕	<i>ser mo</i> (< <i>sen mo</i> )
634	梳頭	吒舍	<i>skra shad</i>
635	洗臉	鷺竹	<i>ngo hkhruḍ</i>
636	費心	高喇車	<i>dkah las che(?)</i>
637	知心	三巴舍	<i>bsam pa shes</i>
638	心寬	三巴羊	<i>bsam pa yangs</i>
639	心窄	三巴奪	<i>bsam pa dog</i>

衣服門

640	裙	思墨扇	<i>smad gsham</i>
641	褲	梁兒麻	<i>dor ma</i>
642	鞋	濫	<i>lham</i>
643	靴	烏喇	<i>hbu la</i>
644	襪	博	<i>hbob</i>
645	帽	沙	<i>zhwa</i>
646	紗帽	伴沙	<i>dpon zhwa</i>
647	束帶	伴鷄喇	<i>dpon ske rags</i>
648	大帽	沙車	<i>zhwa che</i>
649	小帽	沙充	<i>zhwa chung</i>
650	毡條	星丹	<i>phying stan</i>
651	毡衫	星巴	<i>phying pa</i>
652	雨帽	叉兒沙	<i>char zhwa</i>
653	帳房	吒疊兒	<i>ca der</i> <ウイグル語
654	圍帳	雨兒瓦	<i>yol ba</i>

飲食門

655	茶	吒	<i>ja</i>
-----	---	---	-----------

656	飯	薩麻	<i>za ma</i>
657	酒	唱	<i>chang</i>
658	肉	沙	<i>sha</i>
659	油	馬兒拿	<i>mar nag</i>
660	鹽	擦	<i>tshwa</i>
661	吃飯	薩麻雜	<i>za ma bzah~za</i>
662	吃茶	吒索	<i>ja gsol</i>
663	飲酒	唱通	<i>chang hthung</i>
664	吃肉	沙索	<i>sha gsol</i>
665	酥油茶	麻兒吒	<i>mar ja</i>
666	茶冷	吒恰	<i>ja hkh<sup>h</sup>yag(s)</i>
667	茶熱	吒擦	<i>ja tsha</i>
668	煎茶	吒國	<i>ja skol</i>
669	胡椒	薄足	<i>spod rtsub (?)</i>
670	花椒	烟罵	<i>g-yer ma</i>
671	酒冷	唱恰	<i>chang hkh<sup>h</sup>yag(s)</i>
672	酒熱	唱擦	<i>chang tsha</i>

珍寶門

673	金	塞兒	<i>gser</i>
674	玉	舍	<i>shel</i>
675	銀	玉兒	<i>dngul</i>
676	銅	松塞兒	<i>zang gser</i>
677	錫	染膩	<i>zha ne</i>
678	鐵	吒	<i>lcags</i>
679	寶石	領卜車	<i>rin po che</i>
680	金壺	塞兒膽畢	<i>gser dam bi</i>



681	銀壺	玉兒膽畢	<i>ngul dam bi</i>
682	金盞	塞兒展膩	<i>gser can ne</i>
683	銀盞	玉兒展膩	<i>ngul can ne</i>

文史門

684	敕書	者薩	<i>hjah sal</i>
685	誥命	高名	〈漢語「誥命」
686	印信	黨噶	<i>dam ga~kha</i>
687	圖書	梯子	<i>thel~the rtse~tse</i>
688	文書	以計	<i>yi ge</i>
689	番文	博義	<i>bod yig</i>

聲色門

690	青	溫卜	<i>sngon po</i>
691	紅	馬兒卜	<i>dmар po</i>
692	黃	塞兒卜	<i>ser po</i>
693	白	噶兒卜	<i>dkar po</i>
694	綠	掌庫	<i>ljang khu</i>
695	黑	納卜	<i>nag po</i>
696	大青	溫卜噶卜	<i>sngon po chen po</i>
697	大紅	馬兒卜噶卜	<i>dmар po chen po</i>
698	柳黃	章麻塞兒卜	<i>lcang ma ser po</i>
699	柳青	章麻溫卜	<i>lcang ma sngon po</i>
700	青布	列溫卜	<i>ras sngon po</i>
701	白布	列噶兒卜	<i>ras dkar po</i>
702	黃布	列塞兒卜	<i>ras ser po</i>
703	夏布	僧列	<i>seng ras</i>

數目門

704	壹	治	<i>gcig</i>
705	貳	膩	<i>gnyis</i>
706	參	孫	<i>gsum</i>
707	肆	日	<i>bzhi</i>
708	伍	阿	<i>lnga</i>
709	陸	竹	<i>drug</i>
710	柒	敦	<i>bdun</i>
711	捌	節	<i>brgyad</i>
712	玖	谷	<i>dgu</i>
713	拾	竹攤巴	<i>bcu tham pa</i>
714	壹拾	治竹	<i>gcig bcu</i>
715	貳拾	膩竹	<i>gnyis bcu</i>
716	參拾	孫竹	<i>(g)sum (b)cu</i>
717	肆參	日竹	<i>bzhi bcu</i>
718	伍拾	阿竹	<i>lnga bcu</i>
719	陸拾	阻竹	<i>drug (b)cu</i>
720	柒拾	敦竹	<i>bdun (b)cu</i>
721	捌拾	節竹	<i>brgyad (b)cu</i>
722	玖拾	谷竹	<i>dgu bcu</i>
723	壹佰	甲攤巴	<i>brgya tham pa</i>
724	壹千	東剉治	<i>stong tsho gcig</i>
725	壹萬	翅剉治	<i>khri tsho gcig</i>
726	壹分	分治	<i>hphen gcig</i> <漢語「分」
727	壹錢	董子治	<i>dong tse~tshe~rtse gcig</i> <漢語「銅子」
728	壹兩	山岡	<i>srang gang</i>

729	拾兩	山竹籬巴	<i>srang bcu tham pa</i>
730	伍拾兩	山阿竹籬巴	<i>srang lnga bcu tham pa</i>
731	壹百兩	山甲籬巴	<i>srang brgya tham pa</i>
732	壹千兩	山東剝治	<i>srang stong tsho gcig</i>
733	壹萬兩	山翅剝治	<i>srang khri tsho gcig</i>

通用門

734	東	沙兒	<i>shar</i>
735	南	洛	<i>lho</i>
736	西	奴	<i>nub</i>
737	北	祥	<i>byang</i>
738	左	院	<i>g-yon</i>
739	右	葉	<i>g-yas</i>
740	前	敦	<i>mdun</i>
741	後	爵	<i>rgyab</i>
742	内	囊	<i>nang</i>
743	外	昔	<i>phyi</i>
744	上	喇噶	<i>bla kha</i>
745	下	窩納	<i>hog na</i>
746	高	團卜	<i>mthon po</i>
747	低	罵瓦	<i>dmah ba</i>
748	遠	塔零	<i>thag ring</i>
749	近	塔聶	<i>thag nye</i>

注

- ・阿波国文庫本（12行）、静嘉堂文庫本（10行 上下二段）共に 縦書きだが、今、横組に変え、語彙には通し番号を付した。
- ・印刷の都合上、チベット文字、ベルシャ文字、ハングルなどは一切省略し、アルファベット（イタリック。ただし引用部分には例外あり）による転写形式のみを記す。引用の

場合についても同様。なお、Рерих の『Тибетско-русско-английский словарь』には露英同義の語釈を並記しているが、問題のない限り、露文部分は省略した。他、語彙の引用に当っては、原文の体例を無視したことがある。

- 漢字音及びチベット文語形式の音価については〔 〕で示した。/及び〜で示したのは複数の可能性が存在することを表わすもので、異形態の共存を意味するものではない。なお、この音価は両者の対応の妥当性を説明することを前提としたものであり、全面的な検討を経たものではない。
- 漢字の字体は、異体字については僻字を通行字に改め、別字と見なされるものについては正しておいた。
- 引用文献の略称は次の通り。

A：阿波国文庫本（京都大学所蔵複製写真）

S：静嘉堂文庫本

L：ロンドン大学本（ロンドン大学東洋アフリカ学校蔵）

㉑：乙種パリ・アジア協会本

㉒：乙種東洋文庫所蔵明鈔本

㉓：乙種大英博物館所蔵明鈔本（Or 4473）

㉔：同 (15344 d 10)

㉕：天理図書館所蔵清鈔本

㉖：Рерих Тибетско-русско-английский словарь

㉗：張怡荪主編 藏漢大辭典

㉘：西北民族学院藏文教研組 藏漢詞典

㉙：格西曲吉札巴 格西曲札藏文辭典

㉚：于道泉主編 藏漢拉薩口語詞典

表紙）題簽はAでは「西番館譯語九」とあり、Sでは「譯語西番九回四十五」となっている。今省略。

1a) Sは第一行「西番譯語」の下に割注「<sup>シバン</sup>西番ハ即打箭炉以西ノ地ニシテ即吐蕃ヲ云フ明<sup>ウササン</sup>ニ烏斯藏ト謂ヒ清ニ西藏ト謂フ」がある。後人の手になるものにつき省略。

- 1 今母音をVで示せば、チベット文語形式のV<sub>m</sub>は〔V<sub>m</sub>〕の他〔V<sub>n</sub>〕、〔V<sub>ŋ</sub>〕、〔 $\tilde{V}$ 〕の可能性をも考慮に入れておく必要がある。格桑居冕（1985）の巴塘方言ではV<sub>m</sub>が一律に鼻母音化しているし、金（1958）の昌都方言では前寄りの母音（i, e）の時は〔V<sub>n</sub>〕、奥寄りの母音（a, o, u）の時は〔V<sub>ŋ</sub>〕となっている（p. 46, 55, 83 etc.）。昌都方言については例外も存在し〔V<sub>ŋ</sub>~V<sub>n</sub>〕の場合もあるようだが、そこに挙げられている2つの例が共にaのものであるのは何か規則性を求め得るものか。西番語のV<sub>m</sub>は殆んど-n 韻尾（及び-m 韻尾由来）の漢字音によって表わされているが、18「卜隆：brom」（85 同）、562「空：khom」（563 同）、686「黨：dam」の三例は-n 韻尾を持つ漢字で表わされている。これに類似するものとして190「僧：gser（mkhar）」も挙げる事が出来る。漢語の側では既に-m > -n となっており、（中古の）m 韻尾かn 韻尾かによる

使い分けは存在していないので、これを手がかりとすることはできない。

- 4 「老瓦: *zla ba*」漢語の側が[lau ua]のようにになっているのは西番語の[lawa]の w を重複して探っているためと考えてよからう。同様例には、373, 482, 485 がある。西番語の第一音節が果して[l]であったかどうか、判断を下すに少しく慎重であらねばなるまいと考える。*zl-*については他 53—58, 60, 61, 236—247 及び55があるが、55を除き、いずれも同一語彙(月 *zla-ba*)であり、注音漢字に異同は見られない。周(1984)はラサ方言において *zl-* が nt (文)/ts (白)の文白異読状況を呈していることを報告するとともに「古音复辅音声母 \*zl, 在康方言中一般融合后读 dz。」と述べている(p. 180—181)。cf. 天理本 №3「*zla ba* 月 雜瓦」。アムド方言についても Roerich (1958)に“*ḡa-wa*—lune, mois. Tib. lit. *zla-ba*; Lh. *ḡa-wa*; (cette forme se rencontre seulement dans les prières et les chants qui conservent la prononciation de Lhasa). Dan la langue parlée de l’Amdo: *dzā*.” (p. 133) また“*dzā*, *ḡdzā*—lune, mois. Golok *ḡdza-wa* > *ḡdzā*; Tib. lit. *zla-ba*,” (p.142) とある。Jaschke (1881)では, Spiti 及び Tsang, Üいずれも *da-wa*, Khams は *lda-wa* となっている(Phonetic Table p. XVIII)。Migot (1957)の挙げる5地点のうち4地点(K’ANG-TING 1, 2, KANTZÉ, DÉ-GÉ)は *dawa*, 1地点(TAOFU)は *zlaw* となっている(p. 434)。この他, 格桑居冕(1985)の挙げる例に「*zla dkar nda* 1 月 月亮」(p.19)がある。*zl* が[l]となる方言の報告例は Sherpa 方言(西義郎氏の御教示による)以外未見である。今、西番語の[l]を来母字で表わすしたということなのか、spelling pronunciation の一種として *zl*[l] があるのか不明。*zl*[nd] ~ [rd/ld] を来母字で表わしたとするのは、漢語方言(例えば西南官話)の n ~ l 混同を考慮に入れても説得力を持たない。或いは、可能性は低いが周辺のチベット・ビルマ系言語の語彙の竄入を考える必要もあろうか。cf. 尔苏语「1a 1 月」(孙 1982. p. 243); 尔龚语「月亮 1uwa」(孙 1983 p. 275); 彝语四川喜德方言「月亮 1o 1 bo 1」(陳等 1985. p. 233) その場合[lawa]という推定形式もあり得る。
- 6 275, 313, 343, 356 etc. の例から考えると、「ト答: *sprin*」は spelling pronunciation であろう。或いは語彙により、揺れがあるということか。乙種本の影響も考えられる。チベット文語形式の(C)Crに対し、C+rの形で、分けて音注が施されているのはCが唇音の場合に限られている(Cは子音)。
- 12 「恩勅: *zil*」A, S 同じ。西番語においては -l は概ね脱落しており、これを表わしている例は非常に少ない。ex. 46=147, 189, 499=683, 593, 654. このうち593の一例が「力」を、189が「蔣」を用いている(前者は誤字の疑いもなしとしない)以外、他はいずれも「兒」を以て表わされている。cf. ① №12「*zil pa* 席耳罷 露」=②③④ 12, 593の二例は *zil* を CV<sub>1</sub>CV<sub>2</sub>(V<sub>1</sub>≠V<sub>2</sub>)の形で表わしたものの。
- 13 「白: *ba*」については、金(1958)にシガツェ方言では「(ba) phie<sup>8</sup> 霜」(p.34)とあり、方言形を考慮に入れると漢字音が[pie ~ p’ie]のように実現されていたとも考え得る。ただし金(1958)の挙げる形式が文語形式の *ba*ではなく、実は *bad* に対応する

ものであると考え、13を *bad mo* とすれば漢字音との対応はすっきりしたものとなる。ただしこの形式は未確認。292の注参照。

- 15 パリ本(以下④と略。便宜上、語彙に通し番号を付す) №15 「*hja tshon* 虹蜺 恩扎竄」, 大英博物館本 15344 d 10 (以下④と略) 「*hja tshon* 虹蜺 恩雜竄」, 天理本(以下⑤と略。語彙に通し番号を付す) №15 「*hjah tshon* 虹蜺 扎竄」。以下、④⑤に注目すべき異同のない場合は④のみ掲げる。『藏汉大辞典』(以下、⑤と略)に「*hjah gur* 日月彩暈 弧形长虹」(p. 891)とあり。Рерих の『Тибетско-русско-английский словарь』(以下、⑥と略)には「*hjah hkhor* circle of the rainbow」(3 p. 181)とある。後者の形式も漢字音注と対応している。
- 18 Wen(1948)は「*a* Basic value [a].....Before -b it is still [a]」(p. 69)とするが、金(1958)には「带后置字母 (ba) 的在拉萨日喀则说做 ap 或əp」(p. 95)とある。今、Migot (1957) の挙例から該当するものを取り出せば「rgyab ..... (dos) ..... TAOFU *rj'ob*, KANTZÉ *j'op*; thab.....poêle.....TAOFU *thəp* KANTZÉ *thəp* DÉ-GÉ *thə*; thabs.....chance.....K'ANG-TING 2 *thəps*. TAOFU *thəps* KANTZÉ *thəp*; chab.....représentant ..... K'ANG-TING2 *tshəp*; 'ab pa.....aboyer.....K'ANG-TING1 '*əp-pa* K'ANG-TING2 '*rəp-pa* TAOFU '*əp-pa* KANTZÉ *əp pa*; rab..... très.....K'ANG-TING 2 *rro/öp* KANTZÉ *rəp*; lab pa.....parler.....K'ANG-TING 2 *ləp-pa* TAOFU *ləp-pa*, KANTZÉ *ləp-pa*」(p. 425—436)といったものがある。こういったところから、「綽: *chab*」は [tʂ'aʔ]: [tʂ'aʔ~tʂ'aʔ] の他、[tʂ'uoʔ]~[tʂ'oʔ]: [tʂ'op~tʂ'oʔ] のような対応も考えられる。78に同様例。「卜隆: *brom*」については1の注参照。
- 20 「沙: *zhabs*」この例及び「沙: *zhwa*」(506, 645, 646, 648, 649, 652), 「繩: *zhing*」(105, 172—175) 以外、*zh-* は全て日母字によって表わされている。「沙: *zhabs*」, 「沙: *zhwa*」については [ʒa] (拼音符号で示せば ra) の字音を求められなかったため、声母の一致をあきらめたものと考えられる。
- 21 「鎖祿: *zur*」チベット文語形式の *-r* は西番語では「兒」で表わされており、例外は297 (?), 426, 570, 596, 670である。このうち570, 670が *-n* で表わされている以外はいずれも「兒」が表わされていない。このうち297は推定形式に問題がある。426は425及び653の例より、また596は *gser* を表わす他の例(498, 501, 574, 633, 673, 680, 682)にいずれも「兒」があるところから、ともに脱字の可能性が強い。推定形式になお問題を残すが、12が正しいとすれば、この21も試案として呈示する余地はあろう。12の注参照。
- 22 「團: *mthon*」チベット文語形式の *-on -om* に現代標準音で *-uan* (頭子音が唇音のときは *-an*) の韻母を持つ漢字が当てられている例は少なくない。ex. 355, 399, 473=646=647, 606, 746 etc. これは桓韻及びこれに相配する緩, 換, (末) 韻が [-uon] のように実現されていたためであろう。ただし、344, 399の例もあり、*-on* の音価については今少し慎重であらねばならない。cf. 團 *tuôn* (『西儒耳目資』), *t'uon* (『洪武正韻譯訓』) これらの表記が当時の発音を忠実に表わすものか どうか疑問のあるところ

だが参考にはなる。以下、同様の例には一々言及しない。語頭子音の対応については 67, 402 の注参照。なおハンゲルの転写は姜 (1974) に拠った。

- 26 「思干: *skam*」については、語彙によって前接字の *s-* が発音されたとするより乙種本の影響又は spelling pronunciation の可能性を考えるべきと思われる。同じ形式が 168 では *s-* を発音していない。 *s-* を表わしている例はそうでない例に比べかなり少ない (ex. 他に 159, 269=329, 433, 460, 609, 618, 640)。他、同一形式が 26 と 168 (脱字がないものとして) におけるような doublet を成していると考えられる例については、39, 312, 467 の注を参照されたい。
- 29 S は「ト」が殆んど欠けて見えないが、カナは「ボ」とある。
- 32 「*gnam hdud*」と推定する余地もないではないが、Wen (1948) に “*u* Basic value [ɔ], being entirely mixed up with *i*. Before the final *-d*, *-n*, *-l* and *-s*, it is [ɤ], being mixed up with *o*,” (p. 69) とあり、「特: *hdud*」はやや苦しい。「特: *dad*」であれば、西南官話音などを考慮に入れて、[t'e]: [tɛ~t'e~de] といった対応を想定できる。
- 34 S 「青空 ト呑温ト」は誤り。A に従う。
- 35 S 「白雲 ト呑噉 ト」は誤り。A に従う。
- 36 S 「黄雲 ト呑塞」は誤り。A に従う。
- 37 S 「紅雲 ト呑馬兒ト」は誤り。A に従う。
- 38 S 「黒雲 ト呑納ト」は誤り。A に従う。
- 39 A, S いずれも「綵雲 ト吝噴吒」とする。これが正しいとすれば、*sprin hjah bkra*, *sprin tshon bkra* などの形式が考えられ得るが、いずれにせよ「噴」が対応していない。今「ト吝」を衍字と見なす。「噴: *sprin*」については、「噴」の現代標準音 chēn から見て有気: 無気が合わないようであるが、偏旁読で zhēn の如く発音されていたと考えられる。473, 696=697 の例は *chen* に当たるが、これらはいずれも intervocalic の位置にあり、チベット諸方言同様、西番語でもこの位置において有気: 無気の対立が失なわれていると考えられるので (ex. 474, 479 etc.), 反証とはならない。母音の対応については [e]: [i] の他 [e~ə]: [ə] とも。51 の注参照。
- 40 S 「雲間 ト吝謝」は誤り。A に従う。
- 41 西番語においても、現代ラサ方言などと同様、intervocalic の位置では声母の有気: 無気の対立が失なわれるので、*hkhriq* の可能性もある。ex. 59 「占: *chen*」 (=378, 474), 89 「戰: *chen*」, 114 「噉: *kha*」 (=182, 198, 744), 176 「奪: *thog*」, 189 「噴: *chen*」 (=473, 696, 697), 201 「噉: *mkhar*」, 283 「干: *kham*」, 324 「ト: *phug*」, 417 「雜: *tsha*」, 465 「大: *thag*」, 468 「介: *khebs*」, 479 「谷: *khu*」 (=480), 504 「節: *chas*」 (=603), 635 「竹: *hkhru*d」
- 44 S 「日長 你麻通」は誤り。A に従う。
- 45 S 「日短 你麻祭兒」は誤り。A に従う。
- 46 S 「日中 你麻足兒」は誤り。A に従う。
- 47 「足兒: *hdzur*」。「足」には [tsu(?)] (47, 631=632) 及び [tsy(?)] (66, 626) の二

音あったと思われる。669は未詳。

- 50 S「日影 你麻纂止」, A「日影 你麻纂止」 いずれも通行の字書には見出得ない僻字である。今、「纂」としておくが確たる 根拠はない。発音は 現代標準音 qín に対応する形式を採るべきと考える。
- 51 「怎: hdzin」については, Wen (1948) に ‘i Basic value [ɔ].....Before the finals -m and -n, it is an obscure [ə], sometimes even like [ɔ].’ (p. 69) とある。
- 57 S, A いずれも「月明 老瓦噉兒」。次の58の例及び, 30, 367, 584, 612, 693, 701の例から, 脱字の可能性がある。cf. 587
- 60 S「月影 老瓦纂止」, A「月影 老瓦纂止」, 50の注参照。Sのカナ音注は「ラ。ウワ ツインツウ」。
- 61 「怎: hdzin」51の注参照。
- 65 「紐: nyung」については, Ray (1965) に「nyɣnyu/ ‘a few’」(p. 338) の例あり。母音の下 cedilla はその音節にストレスのないことを示している。或は -ŋ の脱落した 異形態が口語形式として存在していたか。とすれば金 (1958) に昌都方言について “其他鼻音尾(即 -n, -ŋ 一引者注)也常失去, 尤其在一个双节词的第二个音节里是如此”。(p. 46)とある現象が西番語においても存在したことになる。ただし, ny-(=my-)の音注には奇妙なものが多い。例: 「娘」nya (353, 459), 「紐」nyung (65, 559), 「你, 膩」nyin (221, 222, 224), 「納」nyag (200, 434), 「奴」sm̐yug (285)。いずれも近似の漢字音を求め難かったためとするのが今のところ最も妥当なところであろう。
- 66 S, A いずれも「宿星 足噉兒」とする。誤り。「足」については47の注参照。
- 67 「駝: thog」は [t'uo]: [t'o(?)] の他 [d'uo]: [t'o(?)] のような対応状況の可能性も考慮しておく必要がある。402の注を参照されたい。
- 72 S「風来 弄客」は誤り。Aに従う。「容: yong」(=180) については 他に「容: gzhong」(430) という音注例もあり, 方言音の混在を思わせる。
- 75 「藏: bzang」493に重出。チベット文語形式の z- は専ら心母字を以て表わされている。ex.12「思勒: zil」, 21「鎖禄: zur」61「散: gzah (hdzin)」106「散: zam」(=153—157), 431「索: zo」, 497「索: bzo」(=498—511), 441「薩: zag」, 472「桑: zang」, 501「松: zang」。例外は邪母字の554「斜兒: zer」, 從母字の75=493及び661「雜: bzah~za」, そして精母字の564「茲: bzi」(=565) である。これらの例外は呉語特有の方言的特徴を背景に生じたものと解釈できる。つまり, その字音体系は邪母と從母の合流, より具体的に言えば, (一部の)呉方言に見られるような邪母, 從母いずれも [z] という特徴を持っていたと考えられる。564については從母の又音を採るかもしくは, 「慈」「磁」などの誤写と見なすことで例外からとり 除くことができよう。105, 276, 283, 402の注参照。
- 78 「博: hbab」金 (1958) にシガツェ方言に関し「(a.....) 又帶韻尾 p 時也常說成 ə。例如: (srab) sa(ə)p<sup>1</sup>馬銜」(p.36) とある。82(=83, 319), 111=134, 117 についても同様。なお, 644には「博: hbob」がある。



- 79 S, Aいずれも「雨注 叉兒巴綽」とするのは誤写。丙種百夷館訳語では「風, 風吹, 風息, 風大, 風小, 風来, 雨, 雨下, 雨住」(S, L; Aは前半やや乱れる), 同畏兀兒館訳語(S, A, L)では「風起, 風息, 風大, 風小, 風来, …… , 大雨, 小雨, 下雨, 緊雨, 細雨, 雨住」と並ぶ。西番館でも体例からして, 「大雨, 小雨, 雨下, 雨住, 有雨, 無雨……」とあるべき。
- 82 78の注参照。
- 83 同上
- 84 13の注参照。「薩: *srab*」は[sa(?): [sap~sa<sup>2</sup>?]か。声母については291の注参照。韻母の対応については101(?), 405=511, 553の同様例がある。18の注参照。cf. 441. 「薩: *zag*」ただし, 異なった表われ方もある。ex 462 「哨: *srab*」。
- 85 「叉: *khhyag*(s)」舌歯音二三等の字が *khy-* を表わしている例は他に 383 のみ。 *ky-*, *gy-* の例なし。「綽: *chab*」については18の注参照。
- 88 S「山黎」, A「山黎」いずれも可。今, 112—127の例に対しAが一律に「黎」を当てているところから, Aに従っておく。
- 101 「擦: *rdzab*」チベット文語形式において, 前接を持つ有声声母は, 現代チベット諸方言では有声音もしくは無声無気音で対応している。西番語でも同様。「擦」は誤字の可能性がある。「*rdzab* (1)汚泥, 泥淖」(因 p. 2351)は意味の上でも対応に問題なしとしない。
- 102 S「闌 喇兒」は誤り。Aに従う。
- 105 「繩: *zhing*」又, 172—175にも。これと「沙: *zhab*」及び「沙: *zhwa*」を除けば *zh-* は全て日母字を以て表わされている。20の注参照。この場合, 日母字に近似のものを求められなかったため(cf. 138「認: *zheng*」, 239「日: *bzhi*」=251, 265, 525, 533, 707, 717)との解釈の他, 異語もしくは江南讀書音といった方言的要素の竄入を考慮に入れる必要もある。75, 276, 283, 402の注参照。
- 108 S「泉 出蜜」, A「泉 出密」いずれも可。今, 477, 478の使用例よりAに従っておく。
- 110 *by-* を唇音字で表わしている例は他に見当らない。cf. 40, 62, 276 etc. 地域的には合わないが, Jäschkeに“*byé ma* (C. \**jhé.ma.\**, W. \**bé.ma.\**) *sand*” (p. 378) とある。金(1958)は「沙(*bye ma*)」についてはラサ *tçe<sup>3</sup> ma<sup>3</sup>* 或 *tche<sup>3</sup> ma<sup>3</sup>*, シガツェ *tche<sup>3</sup> ma<sup>3</sup>*, チャムド *çe<sup>3</sup> ma<sup>3</sup>* とするが, *by-* の挙例で「給(*byin*)」がチャムド方言で *bin<sup>3</sup>* となっている例が見られる (p. 66)。瞿(1987)の報告するところでも衛蔵方言に属する噶尔及び措勤方言でともに *piä<sup>14</sup>* となっているところから (p. 79), 西番語でも[bi(e)ma]となっていたことは疑いない。
- 111 「把: *rba*」の対応については, 前接字の *r-* を発音している例 (262—266, 377, 459, 489, 549)のうち, 初頭音節の場合は 549 のみで, 他多数の例において *r-* を発音していないところから, 問題ないものと考え。26の注を参照されたい。「洛: *rlabs*」の対応については18の注参照。[la<sup>2</sup>): [lap~la<sup>2</sup>?]の他 [luo~lo(?): [lop~lo<sup>2</sup>?] のような関係も考え得る。
- 112 22の注参照。
- 113 S「水低 黎罵瓦」は誤り。Aに従う。

- 115 S「山下 黎窩納」Aに従う。88及び458の注参照。
- 116 S「山前 黎敦」Aに従う。88の注参照。
- 117 S「山後 黎爵」Aに従う。88の注参照。18及び「爵: *gyab*」の韻母の対応は〔*yə*(?)〕:〔*jop*~*jo*?〕か。741も同じ。
- 119 S「山脚 黎罔巴」Aに従う。88の注参照。
- 121 「尊(木): *rtse*(*mo*)」の音注は後続する音節との結びつきが緊密であることに起因すると思われる。同様の例としては「染賦: *zha ne*」(502, 677);「班麻: *pad ma*」(303—305);「丹麻: *hdab ma*」(310)がある。鼻音の末子音を持たず、かつ後続する音節に *m*-, *h*- のない西番語の音節に対し、鼻音韻尾を持つ漢字を当てている例としては、「娘: *nya*」(353, 459),「言(隆): *yar (slong)*」(570),「参: *htshal, bsrel*」(544, 594)がある。このうち「娘」については65の注参照。なお、「尊」が *u* 介音を欠くのは方言的要素の現われである可能性がある。313「孫」もこれと同様。75, 276, 283, 402等と同一の性格のものであろうか。
- 124 S「山澗 黎壠巴」Aに従う。88の注参照。
- 127 S「雪山 渴瓦黎」Aに従う。88の注参照。
- 128 145からみて「ト」は衍字の可能性あり。
- 129 「哨: *srab*」声母については漢語、西番語の双方に〔*ʃ*〕の他〔*s*〕の可能性を考えておく必要がある。cf.84「薩: *srab*」又359の注参照。韻母については〔*au*~?〕:〔*ap*~*au*?~*op*~*o*?〕のような対応の幅を考える(146, 437, 439, 445, 508も同様)。*ab*〔*au*?〕は格桑居晃(1985)の巴塘方言に見られる。〔?〕は後続音節があれば脱落する(p.24)。なお、瞿(1987)によれば、同じ巴塘方言及び衛藏方言の支伯方言では *ab*〔*au*〕となっている(p.80, 83)。18の注参照。
- 130 S「水渾 出烏」は誤り。Aに従う。
- 134 「洛: *rlabs*」については18の注参照。
- 144 西田(1960)に拠った。Jäschke「*rá -ba* l. **enclosure, fence, wall**」(p.521), ㊤「*pha ri* (2)対岸, 彼岸。」(p.1697) ㊤「*rab* ①滩。江河中水浅石多可以徒涉的地方」(p.2661)及び「*rags* 名詞。提, 水坝, 水闸」(p.2640)も可能性あり。Jäschke「*bar-lig W. afield or estate let to a person for the term of his life, for usufruct.*」(p.367)は意味が合わない。藏汉词典(㊤と略)の「*ris* 2. 区域; 境界」(p.838)は関係あるか。
- 145 128から見て、缺字の可能性あり。「出烏丁零 *chu bo gting ring po*」か。
- 146 129の注参照。
- 154 「列: *leb*」については〔*lie*(?)〕:〔*lep*〕の他〔*lie*(?)〕:〔*liep*〕と〔*le*〕:〔*lep*〕の二様の可能性を考慮しておく必要がある。前者については未確認だが、292の例より存在が予想され、後者については漢語方言(北方方言)側で、「列」が「烈裂劣猎」等と共に〔*lai*〕,〔*le*〕のように発音されている場合があるからである。ex. 河北魏県(6 p.113)。河南睢県(6 p.66), 同襄県(3 p.9)等。( )内は『方言与 普通话集刊』の本数と頁数を示す。

- 159 26の注参照。
- 168 26, 159よりみて、或いは「思干藍 *skam lam*」の可能性もあるが、脱字なしと見なす。26の注参照。
- 171 「路平」の「平」は対応するチベット語形式から考えて、「平坦」ではなく「平安」の意。
- 173 「疊：*hdebs*」チベット文語形式の *-y-* (*ya btags*) を伴わない *e* は概ね *i* 介音を持たない音注漢字によって表わされているが、若干の例外がある。109 「丁：*lteng*」, 154 「列：*leb*」, 220 「疊：*de*」, 381 「疊烏：*rtehu*」, 425 「疊：*sder*」, (=426), 653 「疊：*der*」, 178 「滅：*me*」 (=279, 303, 307—311, 591), 454 「滅：*rmed*」, 312 「新：*se* (*hbru*)」, 520 「蓮：*glen*」, 554 「斜兒：*zer*」, 608 「店：*rten*」このうち *e* 及び *en* のものについては西番語にその原因を求めることができる。178 及び520の注参照。双方の音韻体系の違いによる、注音の限界について十分留意せねばならないことは言を待たないが、西番語においては *e* [ie] の条件を今少し広いものと考えてもよからう。
- 176 「奪：*thog*」西番語では現代ラサ方言同様、非初頭音節声母は有気：無気の対立を失ない、いずれも無気で実現される。41の注参照。
- 178 「滅：*me*」金 (1958) に“*e* 和帶有鼻音尾的 *en* 当有双唇声母 *p* 或舌尖前声母 *t th l* 時，常說成 *ie ien*” (p. 53) とあり。他に「墨：*med*」 (=81, 557) があるところから、漢語の側で西番語の [me] を表わすのに苦しんだ結果ともとれるが、[mie]:[mie] であった可能性も十分考慮に入れる必要がある。
- 180 「容：*yong*」72の注参照。
- 181 78, 111の注参照。
- 192 同じ丙種本の百夷館譯語にも「北京 大都」と見える (S, A, L)。また乙種本の百夷館譯語においても「*tai tuu* 北京 大都」とある (東洋文庫所蔵明鈔本及び大英博物館本 15344d10)。転写にあたっては、西田 (1972) を参照した。なお、この二本は筆者が確認し得たテキストという意味で挙げてあるにすぎない。以下同様。
- 193 丙種本百夷館譯語に「南京 南臺」(S, A, L)、同回回館譯語に「南京 喃台」(S, A, L) とある。乙種本では、やはり百夷館譯語に「*nam thwaj* 南京 喃台」とある (上掲の二本)。また、八百館譯語にも「*nay thaaj* 南京 南台」とある (大英博物館本 15344d10)。転写に関しては、東京外国語大学 A A 研の新谷忠彦氏より御教示を得た。
- 194 西田 (1963) に従う。筆者としてはその依拠するところを理解していないので (?) を付しておく。「沙聘」は漢語地名「沙坪」に対応するのではないか。「末喇班：*me lha phan*」か。
- 196 同じく西田 (1963) に拠る。「噶畜：*dgaḥ grub*」に関し未確認につき、やはり (?) を付した。
- 200 西田 (1980. p.22 ; 元1967) に拠る。㊦「*mi nyag rab sgang*.....木雅热冈。鸦蒼江中游东部地带古名，是下区杂甘思六冈之一。地在今四川甘孜藏族自治州乾宁以东康定等县境。」(p. 2068—9) 東洋文庫明鈔本(以下㊦と略。語彙に通し番号) では No.21 「*mi nyag*

- 河西 迷娘」とある。「喇卜: *rab*」の音注は他に例を見ない。或いは「卜」は誤字か。その場合「烏」(?)として *rab*[rau]を表わすものとする考えと、「思」(?)として、*rab*の -bではなく次の *sgang*の s-を表わすものとする考えがあり得よう。前者は同様な例なし。後者の方が可能性は大きい。
- 201 ㊦ではNo.25「*chu ma mkhar* 瞿昌 初麻木渴兒」とある。西田(1970)では、文語形式として *chu rma dkar* を掲げており、西田(1963)でも *chu rma dkar sa cha* となっているのだが、依拠するところを確認していないので、㊦の形式を採用しておく。
- 202 ㊦「*rgyal mo rong*=*rgyal mo tsha ba rong* .....甲绒。甲摩擦瓦绒。脱思麻地区所有三大谷地中、旧時号称大小金川十八家土司所在地区的总名。今属四川省阿坝藏族自治州。」(p. 556) cf Stein (1961) p. 29及び巻末地図。
- 204 ㊦No.712.「*shing kun* 臨洮 盛棍」=㊦
- 205 ㊦No.26「*byang ngos* 凉州 祥俄思」
- 206 「昔: *dpyid*」。カム方言では *py-* は普通「*tq*」で実現されるが、Jäschke に *dpyid*: Khams *χšid* (III. PHONETIC TABLE p. xx) とあり。
- 222 「膩: *nyin*」については65の注参照。
- 224 『藏汉对照常用词汇』(以下㊦と略)に「*kha nyin mo* 前天」,「*kha nyin ka* 前天」(p.69)あり。㊦はいずれも取めないが、*nyin pa*=*nyin mo*」(p. 953) とあるところから、*kha nyin pa* という形式があり得ると考える。また「巴」が衍字である可能性もある。「你: *nyin*」については65の注参照。二日前ということで誤まって「你巴: *gnyis pa*」としたか。ただしこれでは「前日」の意味にならない。
- 227 ㊦に「*gzhes* [名] 以前或以后的时间, 如: *gzhes nyin* 大后天, *gzhes nin* 前年」(p. 762)。また『格西曲札藏文辞典』(以下㊦と略)には「*gzhi* [増]……6. 或作 *zhe* 時間或亲属关系的一种限定: 如 *zhe ning* 两年以前」(p. 746—747)とあり、*gzhes*~*gzhi*~*zhe* は同一形態系の異形態と考えられる。今 *gzhes* を採る。ただし、*gzhes lo* という形式は未確認。「惹羅: *rjes lo*」とするのは対応に問題が残る。日母字は、601の例を除き、専ら *zh-*, *-r* を表わすのに用いられている。
- 258 S「廿日 膩竹籬巴尔」, A「二十日 膩竹籬巴尔」Aはこの字を用いていない。Sもこれ以外では用いていない。Aに従う。
- 259 S「卅日 孫竹籬巴尔」, A「三十日 孫竹籬巴尔」258と同様。Aに従う。
- 267 「須瓦: *byu ba*」337に重出。㊦「*byu ba* [rnying] *byi ba* 鼠。」(p. 1887) [rnying] は古字の意。「須瓦: *byi ba*」とも解釈できないことはない。その場合 *byi ba* は「*ɕiwa*~*ɕiwa*」で、w を第一音節と第二音節で重複して表わしたとする (cf. 4, 373, 482, 485参照) か、呉語の一部で「須」[si] のようになっているところから、呉語もしくは一種の江南讀書音(?)のような方言的要素が竄入したと考える必要がある。(cf. 75, 105, 276, 283, 401)。同種の問題が576にもある。
- 270 Giraudeau に「LAPIN. *rigong*. | *ri bong*」(p. 166) とある。後者の形式のみ載せる辞書が多いが、実際の発音については Bell, (p. 390) Goldstein (p. 1083), 『藏汉对照

拉萨口语词典』(以下㊤と略 p. 918) より前者のようであることが窺われる。

- 276 「斜: *bja*」 351, 352, 383, 387 にも。この対応に 3 つの解釈があり得る。一つは、西番語が [ʔa] で近似の漢字音 [sia] を求め難かったとするもの、もう一つは西番語が [ʔə] となっていたため、「斜」[sie~ʔie] を用いたとするもの。残る一つは呉語もしくは江南読書音といった方言的要素の竄入である。即ち、西番語が [ʔa] であったのに対し「斜」[zia~ʔia] を当てたとする。このうち第 2 のものについては、他に 382 「牙: *bja*」の例がある。382 の場合のみ語彙的に固定されて [ʔa] となっていたというふうにとれないこともないが、包括的な解釈が望ましい。354 「斜: *skya*」の例もあり、速断は慎まねばならないが第 3 の考えをとることにより、他の幾つかの問題ある対応についても合理的に解釈できることに注意されたい。75, 105, 283, 402 の注参照。なお、307 「謝: *hbye*」, 361 「寫: *phye*」はこれに該当しない。
- 282 「卜: *bu*」については、415, 581, 593(?) (cf. 429=680=681) の同様例がある。*bu* (344, 471) 及び *bo* は「烏」で表記されることが多いが、語彙によって違いがあったということか。
- 283 S 「桃 姐干」, A 「桃 姐千」。S ではカナによる発音表記はツィ、となっており、「姐」ととれないこともない。「姐: *rgya*」は 435 にも。西番語で同音と考えられる例を拾うと次の通り。195 「賈: *rgya*」 (=477), 232 「甲: *brgya*」 (=731), 459 「家: *rgya*」, (cf. 97 「剪: *rgya(mtsho)*」 (=144))。これらを包括的に理解するには、283, 435 においてのみ [dʔə] のようになっていたとするより、呉語もしくは江南読書音といった方言的要素の竄入を認めて「姐」[tsia~tʃia] とすべきであろう。75, 105, 276, 402 の注参照。
- 285 ㊤No. 418 「*snyug ma* 思奴麻 竹」=㊤㊤「*smyug~snyug*」については「奴」で [nɿ] を表わしていたとする (65 の注参照) 以外に「妞」の誤写とする可能性もある。また、乙種本の影響も考えておく必要があろう。
- 288 A 「蒜 果」は誤り。S に従う。
- 291 「色: *srad*」[ʃai~ʃe]: [ʃe(?)] もしくは [sə~se]: [se(?)] の二様の対応を想定できる。*sr-* が [ʃ] となっている場合と [s] となっている場合の二通りがあることについては既に西田 (1963) に指摘がある (p. 114)。本訳語では 84, 166—179 は [s], 129=146=462, 467, 728—733 は [ʃ] と考えられる。cf. ラサ方言(文) *s-*: (白) tʃ- (周 1984 p. 180) *sr-* が規則的に [ʃ] となっている方言の報告例は未見。
- 292 「(白)列: *hbras*」については [lai~le]: [Nbre(:)] という対応 (154 の注参照) の他、金 (1958) のシガツェ方言に関する挙例に「(klad pa) lie<sup>1</sup> pa<sup>1</sup> 脳; (las ka) lie<sup>3</sup> ka<sup>1</sup> 工作」(p. 34) とあるところから「(hbras bu) tʃe: pu 果实」(p. 32) ではあるが、西番語において *hbras* [ <sup>(N)</sup>prie~<sup>(N)</sup>brie ] のようであったと考える余地も残すべきか。ただし、今のところ声母の条件は十分吟味していない。同様例 700—703。
- 297 五体清文館(以下㊤と略) に No. 15172 「*ts'os ser šing ts'oi ser šing* ㊤ 槐」とある。「看包盛」は「差 (= 蹉) 色盛」又は「厝色盛」の誤りと考えたい。字形の上からは

「着色盛」が好ましいが、発音の面に問題がある。ただし「色: *ser*」の注音例は他に例を見ないものであり(10, 31, 36, 372, 389, 692, 698, 702いずれも塞兒。このうち372はA, Sいずれも思兒とする), なお疑問を残す。

303 121の注参照

304 同上

305 同上

308 「耶思: *yas*」は spelling pronunciation であろう。739では-sは脱落している。

310 「丹麻: *hdab ma*」については121の注参照

312 313の *se hbru* を誤って(?), 二度答えたと考えられる。とすると312の方は spelling pronunciation ということになろうか。同様の例には335, 336がある。また346もこれに類似した例と言えよう。cf. Goldstein 「*se hbru / sin̄tu / berries, pomegranate*」(p. 1170)

313 「孫: *se(hbru)*」については121の注参照。㊤「*sehu hbru senfzhuf* 也作 *se hbru* 石榴」(p. 1006)

317 ㊤No.151 「*an dud* 櫻桃 按毒」。「*dud*: 菊」が対応しているか否かについては疑問が残る。「菊」は「毒」の誤写か。或いは *dud* [dy~t(?)y] に「菊」[tɕy(?)]を当てたと考えるべきか。cf. ㊤No.14939 「*Uluri* [u] anjir. [ɕ] 羊桃」; Steingass 「*anjir, A fig*」(p. 107); 『波斯语汉语词典』「*anjeer* [名] <植>无花果」(p.172); ウイグル語「*endžyr* 无花果」(赵・朱1985 p. 230)

319 「博: *hbab*」については78の注参照。

321 「列: *ras*」154及び292の注参照。「白: *bal*」の韻母の対応は[ai~e]:[ɛ:]の如くであろう。ただし、卓尼方言に「\**bal*→*pie*<sup>22</sup> “羊”」(瞿1987 p.82)の例あり。漢語の側についても方言形を考慮に入れるとすれば[ie]:[ɛ]も一考の余地はある。声母については、漢語、西番語の双方に[b], [p], [pʰ]の三通りの可能性がある。13の注参照。

323 A「紅藤 思巴馬兒」, S「紅藤 思巴馬兒ト」。Sのカナ音注は「スウキイマアルウボ」。

336 「莽」を「奔」或いは「笨」の誤写と考えても *pi shi, zhi mi, zhi la, zhum bu, byi la* といったチベット語との対応は考えられない。「猫」を直前の335「猪」と誤ったとすると *mang skyes* があり、この語の音訳と対応する。312の注を参照。

337 267の注参照。

338 270の注参照。

344 「本: *bon*」については、Wen (1948) に “*o* Basic value a lower [ɔ]. It becomes [ɤ] and sometimes [ø] before the finals *-d, -n, -l* and *-s*.” (p.69) とあり, *bon* [p(?)ən~bən] のようになっていたものと思われる。399も同じ。なお22の注参照。

346 「鶯」(便開二平耕影)と「鷹」(曾開三平蒸影)を誤ったと思われる。現代方言の多くが両者を同音とし、『中州音韻』や『西儒耳目資』でも同音としているところから推して、同音によるとり違えであろう。*khra*は「鷹」であり、「鶯」ではない。cf. ㊤No. 18296

「鶯 byio ur sgat (*byi<sup>h</sup>u hur skad*)」, Na.15697 「黄鸝 ser bya」; Na.15527 「鷹 khra」 同じ  
 ④にNa.15717 「白道眉 hjiyol mo k'ra k'ra, jiyol mo ca ca (*hjol mo khra khra*)」がある  
 が、「鶯」に対応するチベット文語形式をこれに求め、脱字有りとするのには無理がある。  
 同様の誤りは389にもあり、また他の丙種本訳語にも見られる。例えば、朝鮮館訳  
 語の「鶯 埋」(A)について、小倉(1941)は「鶯」は「鶯・鸝, kos-ko-ri」〔訓蒙  
 kos-ko-ri mən (黄鸝)〔杜詩〕の如くkos-ko-ri [kok-ko-ri]といひ、「埋」といふに當らない。  
 茲では「埋」は恐らくは「鷹 -ün mai-ra」〔月印〕, 「鷹・隼・鸝, mai」〔訓蒙  
 mai (俊鸝)・p'ü-rün mai (蒼鷹)〔以上杜詩〕などあるmai (鷹)である。「鶯」をmaiと誤訓  
 したもののらしい。〕(p. 417)と述べている。琉球館訳語の「鶯 達个」(A, ロンドン  
 本, 稲葉本同じ)及び日本館訳語の「鶯 答各」(S, A及びロンドン本, 稲葉本いず  
 れも同じ)もともに「鶯」を「鷹」と改めて初めて通ずるものである。なお、琉球館  
 訳語には、他に「鶯 達嗑」(A, ロンドン本, 稲葉本同じ)とあり、「鶯」を「鶯」  
 と取り違えた結果、同一の語(「タカ」)が二度現われている。やはり本項目も誤訓の  
 例と見なし、改めないでおく。同様例については312, 336の注を参照されたい。

349 S「鵠 坡欒」は誤り、Aに従う。

350 脱字の可能性もあり。ex.「鶯 〔斜〕嘴」(*bya gag*), 「鶯 嘴〔 〕」(*gag tshe*) etc. ①  
 「*gag* 3. Cs = *bya gág, gag-t'sé a water-fowl.*」(p.64) ②「*bya gag* (2) — 一种水鳥。  
 嘴扁脚短, 爪间有蹼相连的一种水禽。」(p. 1856) 前者であれば354と音注漢字が一致  
 してしまう。他「*hang ka*[yul] 野鴨」(②p. 2520)とすることも可能。

351 276の注参照。

352 同上

353 65の注参照。

354 金(1958)「鵠 (*skya ka*) 昌 : ɕa<sup>1</sup>ka<sup>1</sup>」(p.75)。sky-〔G〕の例は他に467, 573(?)の  
 み。

355 22の注参照。

359 「信 : *srin*」については〔sin〕:〔sin〕であったと考えられる。291の注参照。

361 154の注参照。

364 対応するチベット文語形式が見出せない。「母昔」に誤りがなければ、孫(1980)の  
 挙げる珞巴語 *miçī*: (p.329)はこれに対応するものであろう(今インド諸言語からの  
 借用語である可能性を吟味していない)。西番語の形式は、徐・(1984 p. 142)の白語  
*mo t tsi t* (劍川方言), *mu t tsi t* (大理), *mo t tsi t* (碧江)及び和・姜(1985  
 p.140)の納西語 *mbər t tsw t* (西部), *u t tšər t* (東部)と共に漢語の借用形である  
 可能性を否定できないが、他方で彝語の *bu t zu t* (四川喜德), *ɣu t pi t* (云南南  
 澗), *bu t tçhe t* (貴州大方)といった形式(陳等 1985 p.239)や羌語の *bə t bə t*  
 (桃坪), *bəpəzi*(麻窩)等の形式と共に(孫 1981 p.198), proto-Tibeto-Burman 或いは  
 proto-Lolo-Burmese といった何等かの段階に共通形式を求められるものである可  
 能性もある。cf. チベット文語形式 *sbrang*

- 370 S, A いずれも「賽」に馬偏を付す。cf. 韃靼館訳語「賽留 克兒」(S, A 同じ) *rta rkyang bo* という形式は未確認。或いは「賽駟馬 大蔣ト *rta rkyang po*」とあるべきか。
- 372 S, A いずれも「銀褐馬 大昂思兒」とするのは誤り。cf. 10, 31, 36, 83, 372, 692, 698, 702
- 373 「抄鳥: *khra bo*」は [tʂ'au]: [tʂ'awo~tʂ'awu] であったためと考えられる。4 の注参照。同様例としては他に 482, 485 がある。
- 375 「*glang bu*」は小象, 小牛の意であり (㊟ p. 139), 漢語と合わない。「*glang bo*」という形式が存在するかどうか未確認。「黄牛」に対し, 期待される チベット 文語形式は「*glang po* [名] 公黄牛」(㊟ p. 155), 「*glang* [名] 黄牛」(㊟ p. 155), 「*glang khog* 公黄牛」(㊟ p. 199), 「*glang gog* 黄牛」(㊟ p. 420) といったところである。「鳥」が衍字か何らかの誤写 (例えば「ト」, 「果」 etc.) である可能性がある。
- 380 S. A いずれも「兒馬 大四」。或いは「大西」か。cf. 441, 687; 420
- 381 S 「馬駒 大疊馬」は誤り。A に従う。
- 382 cf. Goldstein 「*rma bya*/māpca/peacock」(p. 865), ㊟ 「*rma bya mabfjaf* 孔雀」(p. 741), Jäschke 「*rma-bya* (vulgo often \**māb-ja*\*) **peacock**」(p. 424), Giraudeau 「PAON. *rma bya* |pron. ma-ya」(p. 204) 「卯牙: *rma bya*」は [mau ja]: [map ʒa~ja(?)] 或いは [mau ia]: [mau ja] のような関係が考えられる。後者の推定形式については 129 の注参照。
- 383 85 及び 276 の注参照。
- 384 276 の注参照。
- 387 S 「鷄蹄 斜吒」は誤り。A に従う。276 の注参照。
- 388 S, A いずれも「斑鳩 替的」とする。cf. ㊟ No. 7320 「斑鳩 (dudu いかるか)」が鳴く。|T| *ti bai sgat. (thi bahi skad)*, No. 15656 「Dudu 野鳩 (のぼと)」|T| *drut drut (drud drud(?))*; ㊟ 「*thi ba* [名] 鳩, 野鳩」(p. 379), 「*ti phu* 或 *de pho* [名] 雉; 野鸡」(p. 339); ㊟ 「*thi ba* 2. 野鳩。3. = *ti bo* 田鳧。4. 在西藏中部称 *the ba* [达] 1. 野鳩 2. 小斑鳩 [法]」(p. 368); ㊟ 「*ti phu* 鳩」(p. 1025), 「*ti ti ri* 鷓鴣」(p. 1025), 「*rdi rdi gu gu* [yul] 斑鳩」([yul] は方言の意。p. 1432) 脱字もしくは「的」が誤写である可能性がある。「斑鳩」を「*thig thig* 斑点」(㊟ p. 458) と呼ぶことがあるか不明。「吒」については *sgrog pa* “to shout, to scream” (Jäschke p. 121) の完了体 *bsgrags*, 未来形 (*b*) *sgrag* (cf. 命令形 *sgrag~sgrags*) 又は *sgra* “a sound, noise; voice” (Jäschke p. 119) のいずれを当てても音声の対応の面では問題がない。cf. ㊟ No. 7314 「|T| *sgat sgroks (skad sgrogs)*」㊟ 鳥啼。」
- 389 346 の注参照。朝鮮館訳語の「黄鶯 努論埋」(A, L) も小倉(1941)によれば, 「努論」*nu-rŭn* (「黄」) + 「埋」*mai* (「鷹」) である。なお, 韃靼館訳語 (S, A) にだけは「黄鷹 蛤兒赤孩」という語彙が見えており, 韃靼語の形式は正しく蒙古語の「鷹」に対応している。cf. ㊟ No. 15527 「*harčagai*。」



- 390 S「蝙蝠 帕江」は誤り。Aに従う。
- 391 A「蟋蟻 卓属」は誤り。Sに従う。㊥「*grog sbur* 同 *grog ma* [名] 螻蛄；蛄蟻」(p. 152)
- 393 S「海青 大兒巴」は誤り。Aに従う。
- 398 S, Aいずれも「廟 日大康巴」とする。かつて語頭の〔t〕を表わすために敢えて僻字を用いたと考え、「廟 吳康巴 *lhahi khang pa*」と推定したが、今再び西田(1963)に従う。*lh-*は他509, 642, 735に見える。
- 400 S, Aいずれも「磚 占巴」とする。ただし, Aは「占」の字の左半分を欠いている。太田(1980)では、これに対しチベット形式を *gyang*(?) としたが、今誤写の可能性を探る。㊥「*pag* I кирпич/brick;」, 「*pag gu* см. *pag* I」(いずれも 5 p.182)
- 402 「茶(木): *hjam*」には今のところ〔tʂ'a〕:〔ʰtʂ'am〕と〔dza〕:〔ʰNdzam〕の二通りの対応を考え得る。前者についてはチベット文語形式の前鼻音(*m-* *h-*)を持つ有声子音に無声有気に対応させている方言例の見られない(cf. 金(1983) p. 115—118)ことが難点であり、後者については平声全濁声母が無声無気となる官話系方言が殆んど存在しないことが問題となる。ただし、後者については呉語もしくは『蒙古字韻』や『洪武正韻』に代表されるとされる、いわゆる江南読書音の影響も考えられ、前者に較べ可能性が高い。75の注参照。
- 403 S, Aいずれも「衙門 參木喇」。「木」は402に引かれての衍字と考える。「*參: khirms*」については「*參*」の字音が初母のもののみなし(即ち、現代音 *cēn* に対応するもの), 〔tʂ'en〕: 〔tʂ'em~tʂ'en~tʂ'e〕のようであったと考えたい。cf. Migot. 「*khirms.....coutume.....K'ANG-TING 2 tʂ'em TAOFU tʂ'öm*」(p.423) 51の注参照。
- 404 A「卧房 聶」は誤り。Sに従う。
- 405 「塔: *tab*」は〔t'a(?)〕: 〔t'ap~t'aʔ〕か。*ab*[ap~aʔ]と考えられる例には他に84, 101(?), 487, 511, 553がある。
- 409 292参照。
- 410 S, Aいずれも「馬槽: 大列」とする。金(1958)に「馬槽(rta bres) 拉: ta¹ pte³」(p.68)とある。拉はラサ方言の意。また㊥「*rta bres dabfzheh* 馬槽。」(p. 425) 「大列」が正しいものとするれば、西番語において〔tap re〕となっていたのであろう。ただし、脱字の可能性も否定し難い。チベット文語形式の Pr-(Pは唇音)について見ると, 6(=34—38, 40, 41), 7(=328), 18, 107(=123), 271, 292(=409), 312, 360(=363), 374がP+rの形で注音しているのに対し, Pr-をそり舌音で表わしている例は272(=356), 275(=343), 313, 326の6例にすぎない。一つ前の409より推して「馬槽 大白列」であったか。
- 414 「征」は「牲」, 「牲」etc. の「笙」と同音の字を誤ったものか。㊥ Na2715「排簾 *gling ts'om*」, Na2716「笙 *gling bu k'a mangs*」 いずれも対応を求められない。
- 415 282の注参照。
- 416 ㊥「*shog gu*」(p. 888) ㊥「*shog gu*」(p.885). Giraudeau 「*PAPIER shog gu*」(p.204).

- 420 ㊥「*cog tse* <汉>小矮方桌, 炕桌 (藏式小桌)」(p. 305) = ㊦ p. 735, ㊥「*lcog tse* <汉>矮方桌 (藏式桌子)」(p. 319) = ㊦ p. 771。この他, *lcog rtse* (㊦ p. 771), *cog tshe* (㊥ p. 143) などの綴りもある。いずれにせよ, 西番語では[tʂo:tsi]のようになっていたものと思われる。
- 423 S「橙 趣度」, A「櫟 趣度」直前の421, 422よりいずれも誤りとみなす。
- 425 S, Aいずれも「櫟 疊兒麻」とする。朝鮮館(A, L), 安南(S, A, L)占城(S, A)などは「櫟」としている。「櫟」に作るのは, 他, 占城(L), 女真(S, A), 百夷(A, L; Sに見えず), 回回(A; Lは手偏; Sに見えず), 日本(S, ロンドン本同じ, A, 稻葉本は手偏)である。cf. S日本館譯語「櫟 撒喇」
- 426 S. Aいずれも「匙 渴疊」21の注及び425, 653参照。
- 430 「容: *gzhong*」72の注参照。
- 431 「卧: *ba*」の対応に問題があるようだが *zo ba* [so:~so:] のようになっていたとすれば矛盾はない。金(1958)はラサ方言に関し, 「除了有舌面塞擦音作声母以外的长元音 o 都说成 ɔ。例如: (glo wa) lo(ɔ):<sup>1</sup> 肺 (pho wa) pho(ɔ):<sup>1</sup>; 胃 (ko wa) ko(ɔ):<sup>1</sup> 牛皮」(p. 15) と述べている。
- 432 Jäschke「*pá-ri W., pá-ru C., B. 1 box, cylindrical or oval, high or flat, of wood or metal. — 2. pá-ru, also pá-tra Sch.*」(p.322), また「*pa tra, more corr. pā-tra (also pa-ṭa Pth) Ssk., cup, basin, bowl (esp. for sacrifices)*」(p. 321)。
- 434 65の注参照。
- 435 Sは「秤」を采偏に作る。Aに従う。283の注参照。
- 437 「要: *yab*」129の注参照。
- 439 「靠: *khab*」129の注参照。508に重出。
- 441 ㊥ p. 756 <漢語「索子」か。
- 442 cf. 108, 617 Das「*mig* the eye: ..... *lde-mig* the eye of a lock, *i.e.*, the key;」(p. 962), ㊦「*myig* [myin] *mig* 眼, 眼睛。」(p.2128)。㊦に [myin](古字)とあるが, Ray(1965)に「/nyiq/N 'to sleep, eyes'」(p. 339)とある。なお, このNについては「The elicitation for the northern subdialect, labelled henceforth N, were made with Lorig Tulku (LT), an English speaking monk from Hor, and with Panjo Jantsho (PJ), a monolingual monk from Dzahuk, both places within a day's ride on horseback from one another and from Kanze, shown on some maps as Kantse.」(p. 336)と説明がある。アムド方言だと, Roerich(1958)に「*ṣñi, ṣñig, ṣñiṣ, ṣñix, ṣñik*——oeil. La forme amdowa correspond à l'ancien tibétain *myig* avec allongement du préfixe. Cf. Tib. lit. *mig*: Lh. *mig, mik*; Golok *ṣñik. ṣñiṣ-ri* ≪globe de l'oeil≫ Tib. lit. *mig-ril*」(p. 122)とあり, 筆者の耳にしたトップテン・ジグメ・ノルブ (*thub ten jig me nor bu*) 師のクンプム (*sku hbum*) 方言でも [ʰnik] となっていた。
- 445 129の注参照。

- 446 西田に(1963)による。Giraudeau「CROCHET a *hgug*」(p. 77)ただし、チベット文語形式の pre-nasal を有する語頭子音を次濁声母で表わす例は丙種本では他に見えない。或いはチベット文語形式の「*hgug(s) pa to bend, to make crooked*」(Jäschke p. 93)と同一の共通形式に端を発した、これに対応する形式が周辺の言語の中に求め得るかも知れない。馬(1951)の挙げる撒尼鼻語「a<sup>h</sup>ŋu<sup>h</sup> t'v t<sup>h</sup>ma t<sup>h</sup> 鉤」(p.367), 袁(1953)の阿細鼻語「dz<sup>h</sup> a<sup>h</sup>ŋu<sup>h</sup> 鉤刺(植物)」(p. 202), 「ŋu<sup>h</sup> 鉤鈎掛掛的(含糊・不爽快)。」(p. 232), 『彝汉简明词典』の「[ŋo<sup>h</sup>ɿ]..... ②鉤(动词)」(p. 279)から少なくとも雲南の彝語には音義両面にわたり、これに対応すると思われる形式が存在することが分かる。
- 456 S, A いずれも「𩇛 戰」。かつて「𩇛」が偏旁読みで発音されたという推測の下に, 「戰」は「𩇛」をそのままオウム返しに考えたものと考えた。「𩇛」は規則的字音を現代標準音に求めれば, tie<sup>(-)</sup> (他協切), die<sup>(/)</sup> (丁協切) 若しくは chà (= 轡 昌越切) である。反切は広韻に拠る。しかし, 今誤写の可能性を探りたい。㊤ Na4280 「*Tohoma* 鞍の傍垂・障泥(あおり) [T] go gdan, godan [C] 轡。», ㊦ [ko gdan 皮墊。〔増〕 1. 皮革毯子。2. 馬鞍下の皮墊。〔達〕」(p. 13)。「戈單」が誤写によって「戰」となるには, 伝承にあたり横書きのテキストが介在したか, 或いは乙種本に類似した体例を原テキストに求める必要がある。これと同類の誤写の例と見なす余地のあるものに593がある。「戈: ko」は73, 560 (=624, 635)の音注例より対応していると考えて差つかえない。
- 458 「我: *hod*」については [ŋo ~ uo]: [ø(?) ~ wø(?)] のような対応が考えられる。Migot (1957) の KANG-TING 1 及び DÉ-GE がチベット文語形式の *h* に対し *w* を以て規則的に対応しており, 西番館にもこのような状況にあった可能性を認め得るからである。cf. 「'ab pa.....aboyer.....K'ANG-TING 1 'ɔp-pa, DÉ-GÉ wap-pa; 'ur...bruit.....K'ANG-TING 1 wur, DÉ-GÉ wur; 'og la.....sous.....K'ANG-TING 1 wɔ<sup>h</sup>la, DÉ-GÉ ɔla; 'od .....lumière ..... K'ANG-TING 1 wʂt, DE-GE æ」(p. 435) 518, 599も同様。
- 461 『汉语方言字汇』によれば, 汉口, 成都では「座」と「着」が声調を除き同音になっている。方言的要素を考慮に入れば, 漢語「鞍座」をそのまま答えとした可能性も否定できない。
- 462 「哨: *srab*」129の注参照。
- 463 S, A いずれも「草籠 禿隆郭」とする。前後が馬具の語彙であるところから, この語も同様であろう。革紐で編まれた「馬籠頭」を指すものと考える。「禿隆郭: *mt<sup>h</sup>hur mgo~hgo*」が対応しているとするれば, -r から *m*-(~*h*)の調音に移る際, 渉り音を生じて[Nt'ur<sup>h</sup>ŋgo]のようになっていたことを示すものであろう。ただし孤例であり, なお問題なしとしない。
- 467 前後関係からこの語も馬具の一種と予想される。この点で, 「*srab shu* 髻头疮。马口两角被铁銜磨损的创痕。」(㊤ p.2972)とするには難がある。筆者としてはWen「1948)が *skya* [C] とする (p.66) のに基づき, 「*srab skyog(s)* 髻索, 马銜带。联结在马嚼

- 子兩端的繩子。」(㊥ p. 2971)と推定する。その対応は〔sau ɕiou〕:〔sap ɕo(?)〕もしくは〔sau ɕiou〕:〔sau ɕo(?)〕の如きであろう。*srab*〔sau〕については129の注参照。第二音節の韻母の対応については同様例566がある。*sky-*を邪母(又は心母)字で表わす例は、573の問題ある例を除けば他に354のみ。cf. 281, 433. この433と467の関係は34—38, 40, 41「卜吝: *sprin*」と39「噴: *sprin*」の、また312「新卜魯: *se~sehu hbru*」と313「孫竹: *se~sehu hbru*」の関係に比すべきものと考ええる。なお、この語は丙種本では他に回回館訳語(S, A, L)に見えるのみ。乙種本には見出せない。回回館訳語の「主勞 魯剛」について、本田(1963)は推定形式を挙げていない。筆者はこれについては、「*la ghām*, A bricle, a bit」(Steingass p. 1124)に対応する方言形を批定すべきと考ええる。母音については今少し検討を加える余地があると思われるが、『波斯語汉语词典』にも「*legām* 马笼头: 马勒, 繮绳」(p. 2044)があり、意味の対応に関しては問題がない。
- 468 ㊥ No. 4285「**Gidacan** 數段に房(ふさ)の付いた鞍掛けの毛氈」[㊥] *sga kebs*, *gakeb* [㊥] 鞍籠「介: *khebs*」は〔ke〕:〔k<sup>(ʰ)</sup>ep~k<sup>(ʰ)</sup>eʔ〕もしくは〔ke〕:〔k<sup>(ʰ)</sup>eiʔ〕の如きであつたろう。後者の推定は格桑居晃(1985)の巴塘方言が*eb*〔eiʔ〕となっているのを根拠としている。先行音節があるため、*khebs*は声母が無気音で発音されたものと考えられる。41の注参照。
- 470 ㊥ No. 2702「**Ihan buren** 銅製の吹奏樂器。口部は細く、先端は太い。音は濁っている。[㊥] *ga ling*, *galing* [㊥] 號筒」文語形式は*ka ling*か。未確認。
- 482 「曹: *tsha*」については4及び373の注参照。
- 485 「鳥: *nye*」については4及び373の注参照。或いは「鳥」に〔*niæ*〕(蘇州), 〔*niə*〕(双峯)のような方言音を考慮すべきか。瞿(1987)に「\*e+\*ba 各地都读 ia 或 ea, 亚东一地读 io」(p. 80)とあり、西番語が〔*nowa*〕のようになっていたとも考え得るが、実際にこのような対応を示す方言例があるかどうか不明。
- 486 「謙: *khyim*」については51の注参照。601を類似例として挙げられる。或いは謙〔*tɕ'i*〕(揚州)のような方言音を考慮すべきか。
- 487 cf. ㊥「*shar lu* 青壮男子」(p. 2838), 「*shar po* 名词。年轻人, 青年」(p. 2838), 「*shar pho* 名词。青壮男子。」Jäschke「*rabs* 1. lineage, succession of families, race, family,.....collectively: *rgán-rabs* old man, aged people, *γžón-rabs* youth, young persons; ....., *p'yi-rabs* men of modern times, descendants, posterity」(p. 524)「喇: *rabs*」については405の注参照。
- 489 A「老人 米兒子」は誤り。Sに従う。
- 491 誤写の可能性を考えて、「貧人 密魚兒ト *mi dbul po*」若しくは「貧人 密鳥兒ト *mi dbul po*」とすべきか、前者については32の注参照。後者についてはMigot(1957)の挙げる「*dbul po*.....pauvre ..... K'ANG-TING 1 '*ulpo* K'ANG-TING 2 '*ulpo* TAOFU '*baempo* KANTZÉ '*pulpo* DÉ-GÉ '*upo*」(p. 431)が参考となる。
- 494 S, Aいずれも「菴」を「菴」とする。

- 496 「*chom*」については、Wen (1948)に“*o* Basic value a lower [o].....It becomes [v] before the final -m, being mixed up with *a*” (p. 69) とあり。
- 497 S「*匠 索馬*」は誤り。Aに従う。
- 501 「*松 : zangs*」については、Wen (1948)に“*a* Basic value [a].....Before -ng, it is a lower [o], being mixed up with *o*.” (p. 69)とあり。cf. 金 (1983) p.140
- 507 647 参照。
- 508 「*鈔 : khab*」445と同じ。129の注参照。
- 511 「*塔 : thab*」は405に重出。韻母の対応は84, 101, 553に同じ。
- 513 S, Aいずれも「*矮子 密通ト*」とするが前後関係から見て「*矮子 密通ト*」とあるべき。三種占城館訳語には「……長子, 矮子, 胖子, 瘦子……」(S, A, L)とあり、滿喇加館訳語にも「……長子, 胖子, 瘦子, 矮子……」(Aの記載順; Sは配列が乱れる; Lには見えず)とある。三種本における偏の誤用については本田 (1963) にも指摘がある(p.162)。
- 514 「*酸 : tshon*」チベット文語形式の *ts-*, *tsh-* に心母もしくは邪母を当てる例は他にない。恐らくは [suon] : [ts'on~ts'on] のような対応で, [ts'uon] の字を見出し難かったことに起因するものと考えられる。22の注を参照。
- 518 「*宛 : hong*」は [uon] : [oŋ~woŋ] のような関係が予想される。22及び458の注参照。cf.『西儒耳目資』宛 uon
- 520 「*連 : glen*」は [lien] : [len]の他 [liɛn] : [lien] の可能性がある。金 (1958) は昌都方言について “e 和帶有鼻音尾的 en 当有双唇声母 p 或舌尖前声母 t th l 時, 常說成 ie ien. 例如 : .....(glen pa) len(ien)<sup>1</sup> pa<sup>1</sup> 愚笨的。” (p.53) と報告している。173 及び 178の注参照。
- 544 チベット文語形式の末子音の -l が, 韻尾 -n の漢字により表わされている例は, 後続する音節に理由の求められるものを除けば, 他に 594 のみ。これ以外の例については12の注参照。Migot (1957) に, 「sbal ba.....grenouille ..... TAOFU <sup>s</sup>pon pa」(p. 432) とあるが, 孤例であり, 西番館で -l [-n] となっていた可能性は小さい。[n] と [l] の近似を利用したと解釈しておくべきであろう。cf. 570
- 545 ㊦ 「*pus mo btsugs pa* 屈膝, 跪下, 膝着地」(p. 1618)。cf. ㊦ No. 628 「*pus mo btsug* 跪 ト思磨ト足」, ㊦ No. 574 「*po ma btsug* 跪 不麼走」
- 549 ㊦ 「*brgad pa to smile*」(2 p. 318)。「兒囑 : rgod」とすれば [əɪ ko] : [rkø(?)]。cf. 葛 kō (『西儒耳目資』), ket (『洪武正韻譯訓』)。ただし, 73, 635 を類似例と見なせるものの, 「囑」は専らチベット文語形式の (*k-*, *kh-*, *g-*) *a* を表わしている (ex. 16, 30, 109, 287, 316 etc.)。111の注参照。
- 553 「*喇 : lab*」405の注参照。
- 559 65 の注参照。
- 560 S「*差 鵝擦*」は誤り。Aに従う。
- 562 「*空 : khom*」1 の注参照。

563 同上。

564 「茲: *bzi*」については75の注参照。

565 同上

570 「言: *yar*」は [ien]: [jar~jer] であろう。-r [n] となる例は、管見の及ぶ限りでは存在しない。類似例に670がある。また544の注参照。

571 *sked pa* は629に重出。

573 大友・木村 (1968) は日本館訳語の「方物 木那哇」(S, A, ロンドン本, 稲葉本全て同じ) についてモノワとし、ワは係助詞と見なす (p. 23, 35)。また, Edwards・Blagden (1931, 許漢訳1941) は滿刺加國譯語「方物 regeonal products 八郎」(ロンドン本に拠る: Aは「方物, 八合不鉄」; Sに見えず) を「barang\*」とし、その註には「物也」とある (p. 81—82)。恐らく西番語についても、これと同様であろうと考える。cf. ㊦「*skyes* 名詞。礼物, 贈品。送別礼物或献送的物品」(p.160), ㊧「*sna ga* 各种, 如大小多种」(p. 484)。「昔: *skyes*」の子音の対応については467の注参照。母音の対応についても, Migot (1957) によれば, -es が *i* になる例がある。ex. 「rjes..... trace, marque. KANTZÉ *dzi DÉ-GÉ ji*; des pa ..... brave, noble ..... TAUFU *ti*-, KANTZÉ *ti*-, DÉ-GE *ti*-; śes pa.....savoir.....DÉ-GÉ *š'i pa*」(p. 427—437)

576 「須: *byu*」㊦「*byi ru coral*, frq., also *byú-ru*」(p. 376)「須: *byi*」とするには呉語もしくは一種の江南讀書音(?)といった方言的要素の竄入を考慮する必要がある。267の注参照。

577 S, Aともに「瑪瑙 墨力」とする。今誤写の可能性を探る。㊦「*mu men* 青金石。別名銅藍, 形如藍玉的一种宝石。」(p.2103)。cf. トス語「*mu min*「*mo`me*」摸滅 瑪瑙」(西田1973 p. 146), ロロ語「*4mu 1mu*「*-mu`mu*」母纂 瑪瑙」(西田1979 p.144)「*乜: men*」の対応は[mie]: [mie]の如きか。韻母については173, 520の注を参照されたい。韻尾の脱落については瞿(1987)に「\**-n* 韻尾の脱落」として「舟曲 *dran→tšie*<sup>44</sup>“想”, \**gdan→tie*<sup>53</sup>“垫子”, \**fidon→ndie*<sup>44</sup>“念”, \**ston→tye*<sup>53</sup>“秋季”, \**gon→kye*<sup>44</sup>“穿”」(p.82)の例が挙げられている。また65の注参照。*mu men*を表わしているものとすれば他に「墨民」, 「墨門」などの余地もあるが, 字形の類似という点で「墨乜」に及ばない。或いは㊧「*ma nu hu* 一种石, 瑪瑙」(p.625)より「墨努(?)」とも。ただし「墨: *ma*」に類似例を見出せない点で弱い。「墨: *mu*」は349「坡: *phug~phu*」を同様例と見なせる。「乜」は他の丙種本にも用例がある。ex. 日本館訳語「眼 乜」(A, S, L, 稲葉本)

581 「ト: *bu*」については282の注参照。

582 「呂思: *rus*」は spelling pronunciation であろう。358 では -s は脱落。-s を表わす例は他308, 590のみ。590, 582参照。

590 S, Aいずれも「香爐 坡思坡兒」。「波」の誤写としても可。三字目の「坡」はこのままでよいが, 同様に改めても対応は成り立つ。

592 「平: (*h*)*phreng*」については「平」が「秤」の誤写である可能性もあるが, 金(1958)

によれば、ラサ方言では *phr- hphr-* が少数 [ph] になる (p.67, 88, 92—93)。周 (1984. p.179—180) にも同様の指摘あり。恐らく西番語にもこのような特徴があったのであろう。ただし金 (1958) の挙例中の「念珠 (*hphreñ ña*)」に対してはラサ, シガツェ, チャムドいずれも [tʃh-] が現われている (p. 92)。

- 593 S, A いずれも「鈴杵 止力ト」。*dril bu* は「鈴」であり、「鈴杵」ではない。cf. ④ 593 「*rdo rje* 鈴杵 奪兒折」= ㊦, ①「*rdo rje* 鈴杵 朵兒只」, ㊦ No.283「*rdo rje* 鈴杵 奪折」。㊦「*rdor dril* 鈴杵。」(p. 1448) ①「*rdor* (<*rdo rje*) vajra, sceptre; *rdor dril a*) buddh. sceptre and bell;」(4. p.341) 誤訓とすれば12及び21の注音例 (これらが、いずれも正しいものとして) より、「止力ト: *dril bu*」は必ずしも誤りとは言えない。12, 21の注参照。誤写とすれば、「刀止ト *rdor dril bu*」とも。ただし「刀: *rdor*」は他に同様の例を見出せない。むしろ「多止: *rdo rje / rdor dril*」もしくは「朵止: *rdo rje / rdor dril*」が伝承にあたり、誤写を繰り返した結果「止力ト」となったものではなかろうか (「多止」→「止多」→「止タタ」→「止力ト」; 「朵止」→「止朵」→「止乃木」→「止力ト」。「多」, 「朵」は他に音訳漢字として例を見ないので、或いは「梁止」であったかも知れない。このような誤写の可能性は456より存在の余地なしとしない。456の注参照。今積極的に脱字を認める根拠がないので、578「世: *shel*」より、「止: *rje*」が対応するものとして、チベット形式としては「*rdo rje*」を採るべきであろう。ただし、「摺: *lce*」(616), 「摺: *che~ce*」(530~537), 「車: *che*」(70, 76, 149, 151, 160, 330, 469, 483, 522, 530, 636(?), 648, 679) 及び「舎: *shes*」(28, 637), 「舎: *shel*」(196, 674), 「惹: *gzhes*」(227) の例から考えると「止: *rje*」は問題がない訳ではない。むしろ、「止: *sgrib / hkhri*」(41), 「止: *grib*(?)」(50, 60), 「止: *htri*」(552) などの例から「止: *dril*」とする方が好ましい。しかしながら、この場合、*r* が僅かな例外 (21の注参照) を除き、全て「兒」で表わされているところから、更に脱字の可能性をも考えねばならぬところに難点がある (「鈴杵 梁兒止 *rdor dril*)。cf. 641「梁兒: *dor*」

- 594 「參: *bsrel*」は [ʃen]: [ʃel] の如くであろう。359の注及び544の注参照。

- 595 「則: *rtsi*」は [tsə(?)]:[tsə] もしくは [tsə(?)]:[tsɿ]。金 (1983. p. 114—145) 所載の方言例からは、声母の条件が今一つ明瞭ではないが、カム方言及びアムド方言において *i* が [ə] となっている例を拾い出すことができる。後者の可能性については、金 (1958) が昌都方言について「(i) 在舌尖前声母后, 偶有時說成 [ə]」(p.52) と述べているところに拠った。同書はシガツェ方言 (p. 35) 及びラサ方言 (p. 14) にも類似の現象が存在することを報告している。

- 596 S, A いずれも「金箔 塞哨」。21の注参照。

- 597 *mtshal* は “vermilion” の意 (Jäschke p.456)。cf. ④ No.358「*tshon rtsi* 顔料 竄兒即」, ①「*tshon rtsi* 顔料 竄即」, ㊦ No.358「*tshon rtsi* 顔料 寸自」。或いは「顔料 措思 *tshos*」の誤写である可能性もある。582の注参照。㊦「*tshos* ②名詞 (1)染料。矿物质以外的染料」(p. 2301)。金 (1958. p. 100)「顔料 (*tshos sa*) 拉, 日 *tshø¹ sa¹*, 昌 *tshø¹*

sa<sup>2</sup>」。拉, 日, 昌はラサ, シガツェ, チャムド方言を指す。

- 599 「五: ho」 韻母の対応については13, 96等の類似例あり。声母については458の注参照。
- 600 Sは605。以下608まで配列に異同あり。SとAの間に配列の異同がある場合にはAの方が意味の関連の上で一貫しているので、全てAに従う。他737—743についても同様。
- 601 Sは606。「認: *shyin*」日母は専ら *zh-*, *-r* を表わすのに用いられており, *by-* を表わす例は他にない。対応は双方の方言的要素を加味し〔ʒən~zən〕:〔(ʒin~) zən〕の如きであつたろうと考える。*i* の音価については51の注参照。
- 602 Sは607。
- 603 Sは608。
- 604 Sは600。
- 605 Sは601。
- 606 Sは602。
- 607 Sは603。
- 608 Sは604。「店: *rten*」の韻母の対応については520の注参照。
- 609 S「藥財 思蠻」は誤り。Aに従う。
- 626 「足: *rgyu*」については47の注参照。
- 631 「足: *mdzug*」については47の注参照。
- 632 同上。
- 633 S, Aいずれも「指甲 塞兒」。Roerich (1958)「*ser-mo*—ongle. Tib. lit *sen-mo*; Lh. *se-mo*; Golok *sin-mo*; Balti *zer-mo*; Lh. *sed-mo*」(p. 155); シガツェ方言「(sen mo) se: 'mo' 指甲」(金1958. p.32); 瞿・譚(1983)「93 指甲 *sen mo* 普兰 *spuhreŋ se: r' mo*」(p.228—229).cf. ㊦「*sér-mo* 1. C. col. **finger**」(p. 577), ㊧「*ser mo* [名] 手指」(p. 911)。㊦, ㊧の *ser-mo* も *sen-mo* に由来するものであろう。或いは *sder mo* との混同によって生じたものか。脱字は他の用例より推して, 「木」(13, 84, 121 etc.), 「末」(480, 488)「磨」(175)のいずれかであろうと思われる。
- 636 「高: *dkah*」他に類似例なし。
- 641 「梁兒: *dor*」
- 644 S「襪 傳」は誤り。Aに従う。
- 647 ㊦ No.347「*zhwa dang ske rags* 冠帶 刷當思結刺思」=㊦。㊦ No.347「*zhwa dang ske rad* 冠帶 轄革納」。㊦「*ske rags* 腰帶」(p. 45)。507に一部重出。
- 653 ㊦ No.12740「**Maikan** 天幕(テント)。柱を立て棟木を置いて布を張りめぐらしたものを」[㊦] *ras gür, raigur* [㊦] *cadir* [㊦] 帳房 cf. Hony (1947)「*çadir*; Tent」(p. 58a)。
- 661 S「吃飯 薩麻雞」は誤り。Aに従う。「雞: *bzah~xa*」の対応については75の注参照。
- 669 S, Aいずれも「胡椒 蒲足」とする。Jäschke に「*rtsub pa harsh, tart, astringent, of taste Med.*; also applied to any thing of a highly **aromatic, pricking, pungent** or **acerb** taste, such as onions and similar vegetables, liable to cause



both dietetic and religious scruples;」(p.440)とあり、㊤に「*spod* vyañjana, parivjana/spices, condiment (such as pepper, ginger, etc.)」(5 p. 270)とあるところから、「胡椒 薄足 *spod rtsub*」と考えたい。ただし、この形式は未確認。S, Aの挙げるところが正しいとすれば、初頭子音の対応に難がある。「蒲: *spod*」を〔bu〕:〔py(?)~pø(?)〕と考える余地もあるが(402の注参照)、平声全濁声母をチベット文語形式の無声無気子音に当てる例は他にない。cf. 67, 746。他に㊤ Na143「*pho ba li* 胡椒 破瓦梨」とあり、㊤に「*pho ba ril bu* śveta-marīca/white pepper」の同義語として「*pho ba ri*, *pho ba ril*, *pho ba ris*, *pho ril*, *pho ris*」が挙げられている(6 p.54, 56)とあるところから、誤字、脱字の可能性を考慮し、「蒲〔 〕*pho(ba) ril~ris*」もしくは「蒲〔 〕足 *pho(ba) ril~ris rtsub*」などとする余地も残されている。ただし、後者の形式は未確認。

670 「烟罵: *g-yer ma*」については〔ien ma〕:〔ier ma〕(570の注参照)の他、音注漢字が西番語に対し、後続音節の声母を重複して、即ち -n+m- の形で表わしている可能性も考慮に入れるべきであろう。その場合、対応は〔ien ma〕:〔ie(:)ma〕の如きか。97, 121, 190, 310は類似例となる。

676 501の注参照。

700 「列: *ras*」については154及び292の注参照。

701 同上。

702 同上。

703 同上。

727 ㊤「*dong tse* 銅子, 銅钱。旧时钱币。」(p. 1299)。

728 S「壹両 山岡」は誤り。Aに従う。

736 Sは743。以下743まで配列に異同あり。全てAに従う。600の注参照。

738 Sは737で「左 葉」とする。Aも同じ。いずれも誤り。

739 Sは738で「右 院」とする。Aも同じ。いずれも誤り。

740 Sは739。

741 Sは740。117の注参照。

742 Sは741。

743 Sは737。

746 「團: *mthon*」は〔t'uon〕:〔Nt'øn〕の他〔d'uon〕:〔Nt'øn〕のような対応の可能性もある。67及び112の注参照。

## 参 考 文 献

北京大学东方语言文学系波斯语教研室编『波斯语汉语词典』商务印书馆 1981。

北京大学中国语言文学系语言学教研室编『汉语方音字汇』文字改革出版社 1962。

Bell C. A. "English-Tibetan Colloquial Dictionary ("Manual of Colloquial Tibetan" Vol

- II) 1905, 3<sup>rd</sup> ed. 1937, Rep. 1978 Ratna Pustak Bhandar, Kathmandu, Nepal  
 陳荆和「安南譯語考釋(上),(下)」『國立臺灣大學文史哲學報』第五, 六期 1953—1954  
 陳荆和「安南訳語の研究(一)―(六)」『史學』 第39卷 3—4, 第40卷 1, 第41卷 1—3.  
 1966—1967.  
 陈士林・边仕明・李秀清『彝语简志』民族出版社 1985. 7  
 Das, C “Tibetan-English Dictionary” the Bengal Secretariat Book Depôt 1902, Compact  
 edition 1977 臨川書店  
 Edwards, E. D & Blagden, C. O. ‘Á Chinese Vocabulary of Mallaca Malay Words and  
 Phrases collected between A. D. 1403 and 1511 (?)’ BSOS 6—3 1931 p. 715—749  
 (許雲樵譯「滿刺加國譯語註」『南洋學報』 2—1 1941/3 p.63—89)  
 Edwards E.D & Blagden, C.O ‘A Chinese Vocabulary of Cham Words and Phrases’  
 BSOAS 10—1 1939 p.53—91. (許鈺譯:「占城國譯語註」『南洋學報』 6—1. 1956/8  
 p.31—55)  
 福島邦道『纂輯日本訳語解題』(京都大學文學部國語學國文學 研究室編『纂輯日本訳語』  
 所収) 1968 京都大學國文學會  
 格桑居冕「藏語巴塘話的语音分析」『民族語文』1985. 2  
 格西曲吉札巴『格西曲札藏文辭典』民族出版社 1957  
 Giraudeau, S. E et Goré, F “Dictionnaire Français-Tibétain Tibet Oriental” Paris Lib-  
 rairie D’Amérique et D’Orient, Adrien-Maisonneuve 1956  
 Goldstein, M “Tibetan English Dictionary of Modern Tibetan” Ratna Pustak Bhandar  
 KATHMANDU, NEPAL 1975  
 本田實信「「回館譯語」に就いて」『北海道大学文学部紀要』11 1963  
 Jäschke, H. A “A Tibetan-English Dictionary with Special reference to the prevailing  
 dialects” Routledge & Kegan Paul, London 1881. (rep. 1972)  
 金尼閣 (Trigault, N)『西儒耳目資』杭州 1626; 北京大学・北京圖書館影印 1933.  
 金鵬『藏語拉薩日喀則昌都話的比較研究』科學出版社 1958.  
 金鵬『藏語簡志』民族出版社 1983.  
 姜信沅「翻譯老乞大・朴道事의 音系」『震壇學報』 38 1974.  
 北村甫・西田龍雄「チベット文字轉寫とチベット語表記」『日本西藏學會々報』第七號  
 1960. 10  
 北村甫・西義郎「華夷訳語のテキストと研究書」(油印) 東洋文庫 1969. 12  
 京都大學文學部國語學國文學研究室『纂輯日本譯語』 京都大學國文學會 1968.  
 馬學良『撒尼彝語研究』(語言學專刊第二種) 商務印書館 1951.  
 Migot, A ‘Recherches sur les dialectes tibétains du Si-Kang (Province du Kham)’  
 BEFEO 48 1957.  
 民族出版社『漢藏對照詞匯』 民族出版社 1976.  
 西田龍雄「十六世紀における西康省チベット語天全方言について——漢語・チベット語

単語集いわゆる丙種本『西番館訳語』の研究——」『京都大学文学部研究紀要』第7  
1963.

西田龍雄『西番館譯語の研究』(華夷譯語研究叢書Ⅰ)松香堂 1970.

西田龍雄『多線譯語の研究』(華夷譯語研究叢書Ⅵ)松香堂 1973.

西田龍雄『保羅譯語の研究』(華夷譯語研究叢書Ⅳ)松香堂 1979. 1980 改訂

西田龍雄『西夏文字 解読のプロセス』1980. (元 1967 紀伊国屋新書)

小倉進平「『朝鮮館譯語』語釋(上)」『東洋學報』28—3 p. 361—421 1941

小倉進平「『朝鮮館譯語』語釋(下)」『東洋學報』28—4 p. 511—576 1941

太田 斎「尖団小論」東京都立大学人文学部『人文學報』第140号 1980. 3

大友信一『室町時代の国語音声の研究』至文堂 1963.

大友信一・木村 晟『日本館訳語 本文と索引』洛文社 1968.

大友信一・木村 晟『琉球館訳語 本文と索引』小林印刷出版 1979.

瞿霭堂「藏語的复元音韵母」『中央民族学院学报』1987. 1

瞿霭堂・譚克让『阿里藏语』中国科学出版社 1983.

Ray, P. S. 'KHAM PHONOLOGY' JOAS 1965 p. 336—342

Рерих. Ю. Н. “Тибетско-русско-английский словарь с санскритскими параллелями” 1—7 1983— НАУКА (8 以降未刊)

Roeher G. “LE PARLER DE L'AMDO” (SERIE ORIENTALE ROMA XVIII) ROMA  
ISTITUTO ITALIANO PER IL MEDIO ED ESTREMO ORIENTE 1958.

庄垣内正弘「『畏兀兒館譯語』の研究——明代ウイグル口語の再構——」『神戸市外国語大  
学外国学研究』ⅩⅣ (内陸アジア言語の研究Ⅰ)

Stein, R. A. “LES TRIBUS ANCIENNES DES MARCHES SINO-TIBÉTAINES”  
(BIBLIOTHÈQUE DE L'INSTITUT DE HAUTES ÉTUDES CHINOISE VOLUME  
XV) PARIS 1961 PRESSES UNIVERSITAIRES DE FRANCE

Steingass, F. “Persian-English Dictionary” 1892. 6th Impression 1977, Routledge & Kegan  
Paul, London. Henley and Boston.

孙宏开・陆绍尊・张济川・欧阳觉亚『门巴洛巴，僜人的语言』中国社会科学出版社 1980.

孙宏开『羌语简志』(中国少数民族语言简志丛书)民族出版社 1981.

孙宏开「尔苏(多续)话简介」『语言研究』1982. 2

孙宏开「藏语若干音变探源」『中国语言学报』第一期 商务印书馆 1983

田村實造・今西春秋・佐藤長『五體清文鑑譯解』(上, 下) 京都大学文学部内陸アジア研  
究所 1966.

田坂興道「『回回館譯語』語釋(一), (二), (三完)」『東洋學報』30—1, 2, 4. 1943. 4, 5, 8.

田坂興道「『回回館譯語語釋』補正」『東洋學報』33—3:4 1951. 10

東條 操『南島方言資料』刀江書院 (1930, 1968再版)

Wen Yu (聞宥) ‘Studies in Tibetan Phonetics, sDe-dge Dialect’ “Studia Serica” 7 p. 63  
—78 1948.

- 文字改革出版社 『方言与普通話集刊』第三本（北方方言与普通話）文字改革出版社 1958.  
 文字改革出版社 『方言与普通話集刊』第六本（北方方言与普通話）文字改革出版社 1959.  
 西北民族学院藏文教研組 「藏汉词典」甘肅人民出版社 1979.  
 西藏民族学院預科藏文教研組 『藏汉对照常用词汇』四川民族出版社 1980.  
 徐琳・赵衍荪 『白语简志』（中国少数民族语言简志丛书）民族出版社 1984.  
 于道泉主編 『藏汉拉萨口语词典』民族出版社 1983.  
 袁家驊 『阿細民歌及其語言』（語言學專刊第五種）中国科学院 1955.  
 云南省路南彝族自治县文史研究室 『彝汉简明词典』云南民族出版社 1984.  
 张济川 「藏语拉萨话声调分化的条件」 『民族语文』 1981. 3  
 张拾荪主編 『藏汉大辞典』民族出版社 1985.  
 赵相如・朱志宁 『维吾尔语简志』民族出版社 1985.  
 周季文 「藏语拉萨话的文白异读」 『语言研究』 1984. 2

### 華夷訳語のテキスト

#### （乙種本）

- ・パリ・アジア協會本
- ・東洋文庫所蔵明鈔本
- ・大英博物館所蔵明鈔本（OR 4473）
- ・同 （15344 d 10）
- ・龍威秘書所収本

#### （丙種本）

- ・阿波国文庫本（写真）
- ・静嘉堂文庫本
- ・稻葉本（『纂輯 日本訳語』所収日本館訳語；東條（1930）所引琉球館訳語）
- ・ロンドン大学本（大友・木村（1968）及び『纂輯 日本訳語』所収日本館訳語；大友・木村（1979）及『纂輯 日本訳語』所収琉球館訳語を含む）

#### （丁種本）

- ・天理図書館所蔵清鈔本

天 地 日 月 風 雲 雷 雨 電 雹

西番譯語

天文門

阿波國文庫

不  
忍  
心

難 薩 你 老 弄 卜 谷 卜 魯 义 兒 巴 洛 塞 兒 瓦

大元

西番

西番ハ所チ窮妙以西ノ地ニ屬スル蕃ヲ云フ

天文門



天  
地  
日  
月  
風  
雲  
雷  
雨

天

難

電

洛

地

薩

電

塞見尾

日

術麻

霧

木已

月

老尾

露

思勒已

風

弄

霜

白木

雲

ト香

雪

渴瓦

雷

ト魯

虹

叱谷見

雨

又見已

星

喝見麻